

中根
淑著

日本文典

下卷

815.

W52n

⊗

名詞

名詞 動詞 接續詞 副詞 後詞

接續詞 副詞

冠詞 助詞 接續詞 副詞 動詞 後詞

同會
26.9.10
圖書館

244889

日本文典卷之下

(中)

四 動詞

○動詞ハ文章中ニ在リテ、名詞ノ働

ニシテ、即視ル、聽ク、言フ、動ク、喜フ、怒ル、哀ム、樂ム、

又ハ往ク、來ル、上ル、下ル、取ル、遣ル、得ル、失フ、等ノ

如キ類ノ語ヲ云フ、

凡動詞中ニ數箇ノ品類アリ、曰ハク單用動詞、曰

ハク重用動詞、曰ハク自動詞、曰ハク他動詞、曰ハク

順用動詞、曰ハク逆用動詞、曰ハク規則動詞、曰

海龍

根
形

單用動詞

ハク不規則動詞、曰ハク助動詞、曰ハク分詞、
 ●單用動詞トハ、唯一語ヲ以其ノ働キヲナス者
 ニシテ、前節ノ「視ル・聴ク」言フ動ク・往ク・來ル等ノ
 如キ類ヲ云フ、即花ヲ視ル・話シテ聴ク及ビ山ニ
 上ル・坂ヲ下ル等ノ如ク、皆一語ヲ以其ノ意ヲ充
 分ニ云ヒ盡クストテ得ル者ナリ、

重用動詞

●重用動詞トハ、動詞ヲ重子用ヒテ、以其ノ働キ
 ヲ形ス者ヲ云フ、即花ヲ視盡クス・話シテ打テ聴
 ク・山ニ攀ゲ上ル・阪ヲ驅ケ下ル等ノ如キ類ヲ云
 フ、是ハ唯一語ニテハ、未其ノ意ヲ盡クサザルヲ

自動詞

以、二語ヲ連用シテ、其ノ意ヲ達スル者ナリ、
 重用動詞ニ分、時アリテ三四語ヲ連用スルヲア
 リ、振リ放ケ見ル・追ヒ驅ケ來リ給フ等ノ如シ、給
 奉ル・時フ等ヲ、他ノ動詞ト重ヌルキハ、唯言語ヲ
 鄭重ニ使フノミニテ、別ニ意義ナキトナレ共、又
 重用ノ中ニ加フベシ、

他動詞

●自動詞トハ、其ハ詞主字ニ添ハテ、獨自働キヲ
 ナシ、全ク他ノ詞ニ關係セザル者ヲ云フ、即余ハ
 眠ルト云フ文ノ如キ、余ノ働キ眠ルヲ以盡キ、而
 絶エテ他ノ詞ニ涉ラザルガ如シ、
 ●他動詞トハ、主字ハ下ニ先客トナルマキ語ヲ

順用動詞
逆用動詞

置キ、而通ジテ之ガ意ヲ盡クス者ナリ、即人、余ヲ
要ス、人、余ヲ路ニ要ス等ノ如キ、唯人、要ス、ノミニ
テハ、語意欠クル所アルガ故、其ノ間ニ余ヲ或ハ
余ヲ路ニ等ノ客又陪トナルベキ語ヲ置キ、而彼
此ヲ通ジテ、其ノ意ヲ盡クスナリ、
●總ベテ動詞ノ働キニ主客ノ差別アリ、之ヲ順
用動詞、逆用動詞ト云フ、順用動詞トハ、文中ハ主
タル者、自其ハ働キヲナスヲ云フ、逆用動詞トハ、
其ハ對スル者ヨリ、此ノ方ニ働キヲナスヲ云フ、
順用動詞ノ例ヲ擧ゲテ云ハ、
●稻肥ユト云フモ、
●人、稻ヲ肥スト云フモ、自然ニ肥ユルト、手ヲ下シ
テ肥ストノ違ヒハアレ共、前文ハ稻ガ主、後文ハ
人ガ主ニテ、自其ノ働キヲナスヲ故、其ニ順用動
詞トスルナリ、逆用動詞ノ例ヲ擧ゲテ云ハ、
●余、人ニ頼マル人、余ニ導カルト云フ類ニテ、前文ハ
主ノ余ガ客ノ人ヨリ働キヲ受ケ、後文ハ主ノ人
ガ客ノ余ヨリ働キヲ受クルヲ故、共ニ之ヲ逆用
動詞トスルナリ、
人ニ知ラルト云フハ、漢語様ニ
ハ、即順用動
詞ノ用法ナリ、

人、稻ヲ肥スト云フモ、自然ニ肥ユルト、手ヲ下シ
テ肥ストノ違ヒハアレ共、前文ハ稻ガ主、後文ハ
人ガ主ニテ、自其ノ働キヲナスヲ故、其ニ順用動
詞トスルナリ、逆用動詞ノ例ヲ擧ゲテ云ハ、
●余、人ニ頼マル人、余ニ導カルト云フ類ニテ、前文ハ
主ノ余ガ客ノ人ヨリ働キヲ受ケ、後文ハ主ノ人
ガ客ノ余ヨリ働キヲ受クルヲ故、共ニ之ヲ逆用
動詞トスルナリ、
人ニ知ラルト云フハ、漢語様ニ
ハ、即順用動
詞ノ用法ナリ、

人ヲ貴ブ語法ニハ、順用動詞ノ場所ニ、逆用動詞

規則動詞

ラ用フルトアリ、即書クヲ書カセラルル讀ムヲ讀マセラルト云フが如シ、是ハ古人ノ説ニ、貴人ハ何事モ人ニ命ジテ、為サスルガ故ニ、自斯ク移リタルナルベシト云ヘリ、思フニ必然ルベシ、

○規則動詞ハ、動詞ハ語尾ヲ變ジテ、種々ハ意味ヲ形スニ、自其ハ規則アル者ヲ云ス、其ノ數五種アリ、其ノ一ヲ四段ハ働キト云ヒ、其ノ二ヲ一段ハ働キト云ヒ、其ノ三ヲ中二段ハ働キト云ヒ、其ノ四ヲ下二段ハ働キト云ヒ、其ノ五ヲ三段ハ働キト云フ、下ノ圖ヲ見テ之ヲ知ルベシ、

働ノ段四

能 押 打 逢 住 釣

カ	サ	タ	ハ	マ	ラ
キ	シ	チ	ヒ	ミ	リ
ク	ス	ツ	ノ	ム	ル
ケ	セ	テ	ヘ	メ	レ

阿 伊 宇 衣
横 横 横 横
行 行 行 行

動詞活用之圖

○四段ノ働キ

ハ、其ノ語末ヲ

縦行中ノ四段

ニ變化ス、一段

ノ働キハ、全ク

他ノ段ニ變化

セズ、中二段ノ

働キハ、其ノ語

末ヲ縦行中ノ

中二段ニ變化

射

キ働ノ段一

キ働ノ段二中

起 落 戀 試 老

著 似 干 見 居 ぎ 子 比 ミ 一

カ ツ フ ム エ

ス、下二段ノ働
キハ、其ノ語末
ヲ縦行中ノ下
二段ニ變化ス、
三段ノ働キハ、
為ト云フ動詞
ト、漢語ヨリ形
ル動詞トニテ、
佐縦行中ノ三
段ニ變化ス、

キ働ノ段二下

齋 率 得 受 瘦 捨 兼 辨 譽 消

リ 牛

ル ヲ ヲ ク ス ツ ヌ フ ム エ

エ エ ケ マ テ 子 へ ヌ ム エ

○何レノ段ヲ
論ズルナク、語
末ニ濁音ヲ持
ツ者ハ、其ノ變
化モ後ヲテ濁
音ヲナス、即閉
ガ閉ヰ、續
グ、續ガシ、等ノ
如シ、三段ノ變
化ヲナス者モ、

枯 饑

ルレ
立子

語調ニ由リテ、
或ハ濁音ヲナ
ス、即感ジ命ズ、

三ノ段ノ働キ

為 約

ハ
ス
セ

等ノ如シ、
○錆ビ、饑ビノ
如キ語ハ、錆ブ、

僕ト變化スマキ者ナルヲ、斯ク云ハザルハ、自
然一方ノミ用フルトナリタルニテ、決シテ變
化ヲナス能ハザルニハ非ズ、則中二段ノ働キヲ
ナス者ト知ルベシ、其ノ外相見ルノ相モ、漢字ノ

意味ニ由リテ、一偏ニアヒトノミ訓ズレ共、本彼
此互ニスルノ意ニテ、合ヒ合フヨリ轉シ来リタ
ル者ナレバ、亦錆ビ、饑ビノ類ト知ルベキナリ、
○黄^キバム・虫バム・隣ガル・昔ガル・利ロブル・物知り
ガルノ類ハ、バム・ガル・ブルヲ別ノ語トスベカラ
ズ、則變化スル聲迄ヲ併ハセテ、一語トナスベキ
ナリ、

○動詞ノ變化ハ、圖ニホス如クナレ共、人或ハ之
ヲ誤ルコトアリ、是ハ同訓同義ヨリ作りタル語ニ
テモ、自他順逆ノ別ニテ、其ノ段ノ働キヲ異ニス

ルヲ以ナリ、例ヘテ云ハバ、聞クト云フ語ハ、加縦
行ニテ、四段ノ働キヲ為セ共、聞^ナトナル^ナル^ナル^ナル^ナル^ナ
ハ、元来ノ變化ハ、語中ニ隱ヒ、而語末ノ變化ハ、也
縦行ニテ、下二段ノ働キヲナスナリ、代フト云フ
語モ、波縦行ニテ、下二段ノ働キヲナセ共、代^リ代^り代^り
ルト云フキハ、良縦行ニテ、四段ノ働キヲナスナ
リ、是皆元ノ働キトハ、全ク關係セヌ者ナリ、此ノ
別察セズンバアルヤカラズ、
樂クハ、加縦行ニテモ、麻縦行ニテモ、共ニ四段ノ
働キヲナシ、流ルハ、良縦行ニテ、下二段ノ働キヲ

ナシ、佐縦行ニテ、四段ノ働キヲナス、是亦前節ト
同ク、自他ノ別ニ由リテ、其ノ働キヲ異ニスルナ
リ、此ノ類皆此クノ如シ、

○死ハ、元漢語ナルヲ、何時シカ日本語ニモ混シ
テ、死^シナシ^シ死^スニ^ス死^ト子^トト、四段ノ働キヲナス語
トナリタリ、

○三段ノ働キノシ^スセ^ハハ、則^チ為^シ為^ス為^セノ意
ニテ、此ノ働キヲナス者ハ、唯此ノ一語ト、無数ノ
漢語トニ限ル^トナリ、蓋漢語ヨリ動詞ヲ形ルニ
ハ、必^ズシ^スセ^ハヲ添ヘザレバ、適ハヤル^ト故、則之ヲ

合ハセテ、以其ノ語中ノ動キトナスナリ、心カレト云フハ、堅外ハ名詞、ハ動詞ナリ、堅クスト云フハ、堅外ハ副詞、ハ動詞ナリ、心シ、堅クスト合
トステ、一ノ動詞

漢語ノ動詞ハ、三段ノ動キヲナス者ナレ共、時トシテハ全ク之ヲ畧スル一アリ、例ハ、縦横奮撃遂ニ之ヲ破ルト云フ文ノ奮撃ハ、動詞ナレ共、三段ノ動キヲ畧シテ、用ヒザルガ如シ、

○不規則動詞ハ、總ヅテ前ニ掲ゲタル圖中ハ規則ニ當ラザル者ヲ云フ、即來ハ來來ト中二段ノ變化ノ外更ニ來トセ變ズ、是ハ不規則ナル語ニ

不規則動詞

シテ、外ニ其ノ類アルナシ、

○シラ語末ニ含ミタル動詞ニテ、之ヲ加縦行ニ

變ズル者多シ、即善シ・惡シ・強シ・弱シ・高シ・低シ・白

シ・黒シ・厚シ・薄シ・深シ・淺シ・等ノ如キ、變ジテ善カ

ラシ・惡カラシ・善キ・惡キ・善ク・惡ク・善ケレ・惡ケレ

等トナルナリ、是ハハ聲ガ、加縦行ノ變化ヲ為

○シラ語末ニ含ミタル動詞ニテ、更ニ加縦行ノ

變化ヲ履ム者アリ、即嬉悲樂苦・久淋恨メシ・耻ヅ

カシ・等ノ如キ、變ジテ嬉カラシ・悲カラシ・嬉キ・悲

助動詞

キ・嬉ク・悲ク・嬉ケレ・悲ケレ等トナルナリ、
 右ノ動詞、總ベテ加縦行ノ變化ヲナスルハ、則規
 則動詞ナリ、然レ共獨シテ以畢ルルハ、一種異様
 ノ法ナルヲ以、則不規則動詞トスルナリ、
 ○助動詞ハ、常ニ動詞ハ後ニ添フテ、以其ハ意味
 ハ足ラザル所ヲ助ケ成ス者ナリ、即流レ・流レト
 ノミ云ヒテハ、其ノ意味未充足セズ、若シニ流レ
 シ・流レリト、助動詞ヲ加フルルハ、其ノ意味全ク
 充足ス、而其ノ語總シテ精密ニ時ヲ顯ス一ヲ主
 トス、時トハ過去・現在・未來ノ三時ヲ云フ、

過去

○過去トハ、既過キ往キタル時ヲ形スヲ云フ、其
 ノ中充分ト不充分トノ別アリ、充分過去トハ、其
 ハ時全ク過キ去リテ、今已遠キ前ノトトナリタ
 ルヲ云フ、例ハバ、古昔勸學院ヲ置カレシノ如シ、
 不・充分過去トハ、其ハ事前ニ在リト雖、未全ク過
 キ去ラザル者ヲ云フ、例ハバ、近日府縣ニテ無教
 ノ小學校ヲ建テリノ如シ、
 ○現在トハ、今為ス時ヲ形スヲ云フ、之ニ亦充分
 現在ト云フアリ、是ハ其ノ事今僅ニ終ルヲ云フ、
 例ハバ、余地理書ヲ讀ミ了リタリノ如シ、其ノ充

現在

未來

分現在ニ非ザル者ハ、今方ニ之ヲ為スヲ云フ、例
 ハバ、余今歴史ヲ看ルノ如シ、
 ○未來トハ、今ヨリ後ハ時ヲ預形スヲ云フ、是亦
 充分ト不充分トノ別アリ、充分未來トハ、其ハ事
 全ク豫來ニハシ在リテ、他ハ時ニ関涉セザルヲ
 云フ、即余ハ明日平算ヲ終ラシノ如シ、不充分未
 來トハ、其ハ事他ノ時ニ在リテモ、大方是ハ斯ク
 在ラント推量スルヲ、猶未來ヲ察スルガ如キ片
 用フルヲ云フ、即彼ハ比例ヲ學ビタラシ又ハ早
 已點竄ヲモ為シ又ハシ等ノ如シ、

助動詞ハ、斯クノ如ク時ニ就キテ、其ノ前後遲速
 ノ様子ヲ精密ニ顯ス者ニシテ、文章ノ中ニ於キ
 テハ、甚要用ナル者タリ、而其ノ語雅言及ビ和歌
 ニ用フル者ト、平常ノ文ニ通シテ用フル者トヲ、
 併ハセ攀グル片ハ、一ノ時ニ就キテモ甚多種ア
 リ、其ノ故ハ唯一語ニテ、全ク變化セザル者モア
 レ共、文章ノ模様ニ因リテハ、其ノ語未ヲ變化ス
 ル者多キヲ以ナリ、則左ノ圖ヲ見テ之ヲ知ルベ
 シ、

助動詞之圖

充分過去		不充過去		充分現在		不充現在	
此ノ語ニ接スル動詞ハ其ノ語末ヲ衣横行ニ變ズ單聲ノ語ハ直チニ接ス	ク	ツ	シ	ル	レ	ク	ク
此ノ語ニ接スル動詞ハ其ノ語末ヲ伊衣ノ横行ニ變ズ單聲ノ語ハ直チニ接ス	ク	ツ	シ	ル	レ	ク	ク
此ノ語ニ接スル動詞ハ其ノ語末ヲ字横行ニ變ズ	ク	ツ	シ	ル	レ	ク	ク
此ノ語ニ接スル動詞ハ其ノ語末ヲ字横行ニ變ズ	ク	ツ	シ	ル	レ	ク	ク
此ノ語ニ接スル動詞ハ其ノ語末ヲ字横行ニ變ズ	ク	ツ	シ	ル	レ	ク	ク
此ノ語ニ接スル動詞ハ其ノ語末ヲ字横行ニ變ズ	ク	ツ	シ	ル	レ	ク	ク
此ノ語ニ接スル動詞ハ其ノ語末ヲ字横行ニ變ズ	ク	ツ	シ	ル	レ	ク	ク
此ノ語ニ接スル動詞ハ其ノ語末ヲ字横行ニ變ズ	ク	ツ	シ	ル	レ	ク	ク
此ノ語ニ接スル動詞ハ其ノ語末ヲ字横行ニ變ズ	ク	ツ	シ	ル	レ	ク	ク
此ノ語ニ接スル動詞ハ其ノ語末ヲ字横行ニ變ズ	ク	ツ	シ	ル	レ	ク	ク

充分未來		不充未來	
此ノ語ニ接スル動詞ハ其ノ語末ヲ阿伊衣ノ横行ニ變ズ單聲ノ語ハ直チニ接ス	ク	ツ	シ
此ノ語ニ接スル動詞ハ其ノ語末ヲ阿伊衣ノ横行ニ變ズ單聲ノ語ハ直チニ接ス	ク	ツ	シ
此ノ語ニ接スル動詞ハ其ノ語末ヲ阿伊衣ノ横行ニ變ズ單聲ノ語ハ直チニ接ス	ク	ツ	シ
此ノ語ニ接スル動詞ハ其ノ語末ヲ阿伊衣ノ横行ニ變ズ單聲ノ語ハ直チニ接ス	ク	ツ	シ
此ノ語ニ接スル動詞ハ其ノ語末ヲ阿伊衣ノ横行ニ變ズ單聲ノ語ハ直チニ接ス	ク	ツ	シ
此ノ語ニ接スル動詞ハ其ノ語末ヲ阿伊衣ノ横行ニ變ズ單聲ノ語ハ直チニ接ス	ク	ツ	シ
此ノ語ニ接スル動詞ハ其ノ語末ヲ阿伊衣ノ横行ニ變ズ單聲ノ語ハ直チニ接ス	ク	ツ	シ
此ノ語ニ接スル動詞ハ其ノ語末ヲ阿伊衣ノ横行ニ變ズ單聲ノ語ハ直チニ接ス	ク	ツ	シ
此ノ語ニ接スル動詞ハ其ノ語末ヲ阿伊衣ノ横行ニ變ズ單聲ノ語ハ直チニ接ス	ク	ツ	シ
此ノ語ニ接スル動詞ハ其ノ語末ヲ阿伊衣ノ横行ニ變ズ單聲ノ語ハ直チニ接ス	ク	ツ	シ

日本史記 卷之四 十一

小 園ヲ付シタル區中ノ語ハ名詞・代名詞・形容詞・
 等ニモ接ス、即チ此ノ盛ナリハ名詞・代名詞・形容詞・
 清世・等ノ如シ、
 者、マシハ、ンカシノ約リタ

ル者ヲシテハ、シノ約リタル者ナリ、其ノ他皆之ニ準ズ、ハカ
リカシノ約リタル者ナリ、其ノ他皆之ニ準ズ、ハカ
持テタル助動詞ナリ、令圖中ニハ之ヲ掲グ、皆時ヲ
○過去ハ動詞ハ、必助動詞ヲ假ルニ非ザレバ、之
ラ言ヒ出ス事能ハズ、即飽キケリ飽ケリ約セリ、
射ケル著シ等ノ如シ、

過去ノリ及ビ現在ノルレヲケリケルケレト混
ジテ、誤リヲ致ス、多シ、例ハ、路コソ無ケレト
云フハ、無クノクヲケト變ジテ、レヲ添ハタルナ
レバ、無ケノ動詞ニ、レノ助動詞ヲ加ハタル者ニ
シテ、現在ナリ、名コソ流レテ播聞エケレト云フ

ハ、聞エノ動詞ニ、ケレノ助動詞ヲ付ケタル者ニ
シテ、過去ナリ、ルモ皆此ノ類トリ、察セズンバ
アルバカラズ、古人ハ、無ケレ、憂ケレ、善ケレノ類
リ、タモ皆ケレヲ添ハタル者ト思ハレ

キ、シケリ等ハ、時アリテ後詞ニ接スル一アリ、即
過ギニシ、誓ヒテシ、落チニキ、食ヒテケリ為シテ
ンヤ等ノ如キ是ナリ、古人ハ、ニキ、ニシ、テ、シ、テ、
レ、タ、一語ニ合ハセテ論ジラ

○現在ハ動詞ハ、助動詞ヲ假ラザル者ト、助動詞
ヲ假ル者トノ二アリ、助動詞ヲ假ラザル者トハ、

總ベテ飽キ飽ク飽ケ約シ約ス約セノ如ク語未
ヲ種々ニ變化シテモ唯其ノ語ノミニテ意味ノ
足ル者ヲ云フ單聲ノ射者ノ如キ語モ意味足ル
者トハ落ツル試ムル約スル射レ者ルノ如キ類
ヲ云フナリ、

○未來ハ語モ過去ト同ク必助動詞ヲ假ルニ非
ザレバ之ヲ言ヒ出ス不能ハズ即飽カシ飽キ又
バシ約ヤシ取ルラシ著シノ類是ナリ、
シハ古書ニハ皆山ヲ用ヒタレ共後世ハ其ノ音

重複助動詞

ヲ變ジテシヲ用フルトナリタリ、

○ツルナリナリケリタリシ等ノ如ク三時ノ内
ヲ重子用フル者ハ上ハ時ハ其ハ事ニ係リ下ハ
時ハ之ヲ語ル時ニ係ルナリ例ヘバ行キツルナ
リト云フハ行キツルガ一ノ過去ナリ其ノ行キ
ツルヲ語ルニ付キテ現在ノナリヲ用ヒタルナ
リ命ナリケリト云フハ命ナリガ一ノ現在ナリ
其ノ命ナリヲ語ルニ付キテ過去ノケリヲ用ヒ
タルナリ其ノ他皆之ニ準ズバシ、

○前圖中載スル所ノ助動詞ノ外更ニ不成助動

不成助動詞

詞ト云フ者アリ、是ハ都ベテ其ハ事ヲ成シ遂ゲ
シハズ、直今ニ之ヲ打テ消ス者ニシテ、現在ト未
來トノ時ヲ領セリ、即見ズ見ジノ如シ、若過去ヲ
形サントスル中ハ、必前圖中ニ示セル、過去ノ助
動詞ヲ假リテ、之ヲ形ルナリ、即見ザリシ見ザリ
ケリノ如シ、

不成助動詞之圖

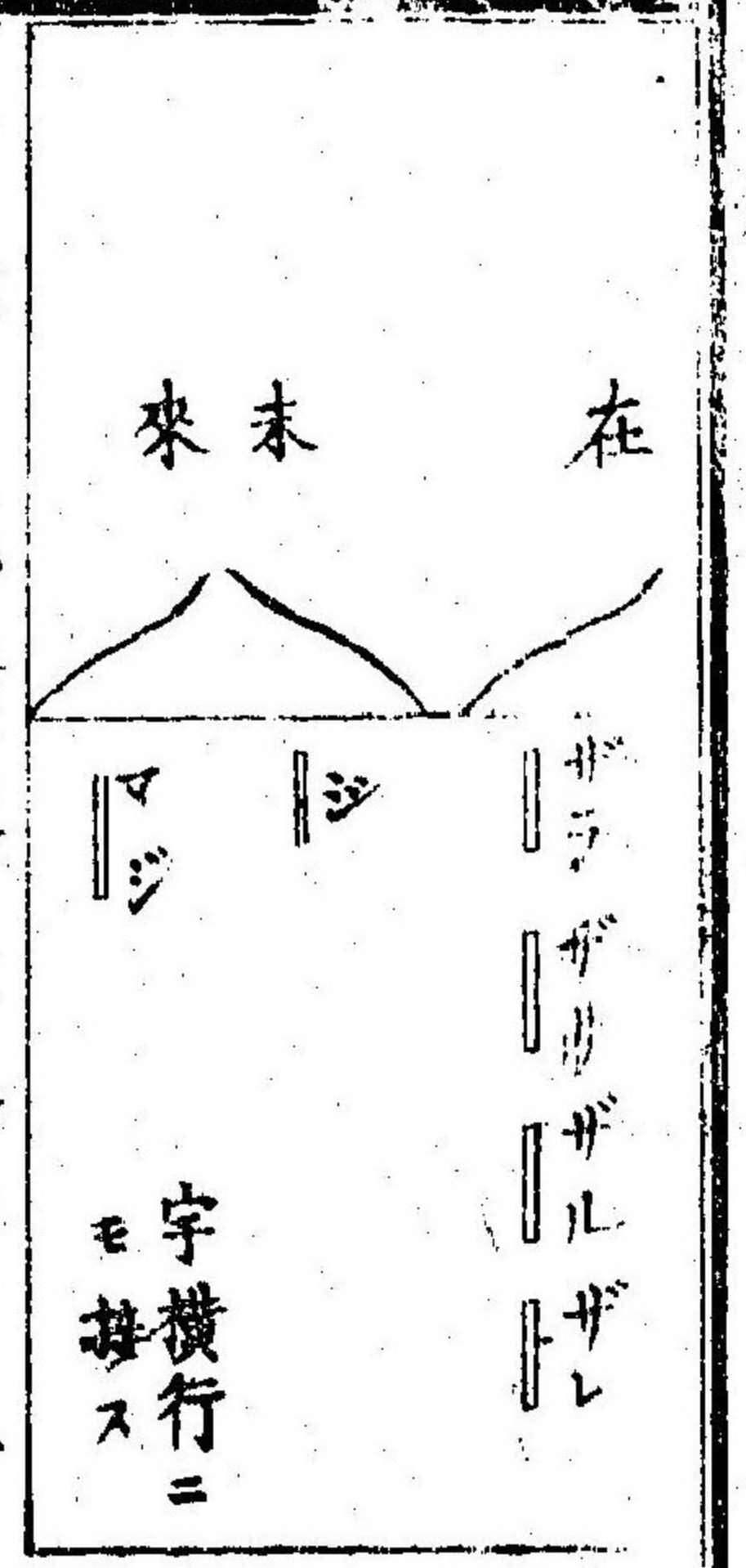
現

ズ又子

此ノ語ニ接スル助動ハ其
ノ語末ヲ阿伊衣横行ニ變
ズ聲ノ語ハ直十二接ス

○既圖ヲ以示シタル、
助動詞及ビ不成助動
詞ノ外、更ニカヤカナ
ガナカシヨ子ナ等ノ

普通助動詞



マシハ、語末ニシテ、
以、更ニ加シテ、
變化ヲナス、
俗語ノ見マシ見マセ
シノ類モ、皆時ヲ持チ
タル不成助動詞ナリ
今圖中ニハ、別ニ之ヲ
載セズ、

見シカ・見シカナ等ハ、共ニ過去、見ルカ・見ルカナ
等ハ、共ニ現在、見シカ・見シカナ等ハ、共ニ未來ナ

如キ助動詞若干アリ、
之ヲ普通助動詞ト云
フ、其ノ故ハ、總ジテ此
ノ助動詞ハ、自時ヲ持
タズ、常ニ上ノ語ノ時
ヲ以其ハ時トナシ、三
時ニ通ジテ用フル者
ナルヲ以テ、例ハハ

リ其ノ他皆之ニ準スベシ、今之ガ時ニ拘ラズ其
 ノ語ノ意味ヲ畧説セン、則左ノ如シ、
 〔カトヤハ、共ニ疑問ノ語ニ添フテ、以意味ヲ助ケ
 成ス者ナリ、即吾カ人カ見ルヤ、見ザルヤ、等ノ如
 シ、カヤト連用スル時モ同意ナリ、但シ未来ノ
 ノ下ニ添フテ、其ノ語ヲ反語トスルコトアリ、為サ
 ンヤ、為サランヤ、等ノ如シ、然レ共己ミナシヤ、
 ハ、巴メヨヤノ意ニテ、反語ニハ非ザルナリ、
 〔カハハ、事ノ善否ニ關セズ、歎息ノ意ヲ顯ス語ナ
 リ、樂キカナ、悲キカナ、等ノ如シ、

〔ガハ、カシ、共ニ望ミ命ズル意ナリ、長クモガハハ、
 長クアリ度キ意有レカシ、ハ有レノ意ナリ、又、多
 キゾカシ、杯ト、示教スル義ニモ用フルコトアリ、
 〔ハ、呼ビ掛ケ、又ハ命ズル意ナリ、童ヨト云ハバ、
 呼ビ掛クル意、學ベヨト云ハバ、命ズル意ナリ、何
 レモ上ノ語勢ニ由リテ、其ノ意ヲ異ニス、
 〔子、人コソ知ラ子ノ子ハ、不成、ハ、命ズル意ナリ、行
 助動詞ニシテ、自之ト異リ、ハ、命ズル意ナリ、行
 キ子ト云ハバ、行ケト云フ義、取リ子ト云ハバ、取
 レト云フ義ナリ、
 古書及ビ和歌ニハ、是等ノ外、尚種々ノ助動詞ア

リ、即願望ニハ、ガ族寐シテシ、ナシ、御幸待タナシ、
等アリ、歎息ニハ、カカモ、用フル者ナリ、意ニ、ナ、移ケリ
ケリナリ、等アリ、然レ共凡斯クノ如キ古雅ナル語
ハ、古人サヘ稀ニ用フル者ニシテ、今日ニ至リテ
ハ、格別要用ナル者ニモ非ザレバ、今一々之ヲ載
セズ、古書及ビ和歌ヲ讀ムハ、當リ、其ノ處ニ隨
フテ、之ヲ明スベシ、

半助動詞

○動詞ノ體ヲ其ヘタル助動詞アリ、之ヲ半助動
詞ト云フ、即可シハ預許ス意ニ用フル者、即成シ得ル者、即永リモ解ケ又バシノフル者即取ルバシ、一ハ命令ニ用
ハ預許ス意ニ用フル者、即成シ得ル者、即永リモ解ケ又バシノ

詞法

如シ、以、之ヲ加、縦行ニモ變ス、合得見得ル、開キ得
ルト得ル、異リ、能フ見、能フ、聞キ、辭、使、カ、使、ハ、ノ、類
ナリ、度ク見、度ク、聞キ、度、等ノ類ナリ、是ハ動詞ノ如
ク、各其ノ意味ヲ保ツ者ナレ共、元來他ノ動詞ニ
添フテ、以其ノ働キヲ顯シ、而獨自立ツ能ハザル
者ナルガ故、則半助動詞ト為サ、ルヲ得ザルナ
リ、
○動詞ハ、文章ノ中ニ於キテ、百般ノ働キヲ為ス
者ナレ共、自法アリテ、其ノ中ニ統轄セルトナリ、
抑法ト云フハ、過去、現在、未來ノ三時ニ拘ラズ、其

ノ語ノ属スベキ、定規アルヲ云フナリ、例ヘテ云
ハ、余行クト云ヘバ、直キニ巳ノ行クトヲ顯ス
ナリ、君行クト云ヘバ、人ヲ勸メテ、行カシムル
ヲ顯スナリ、今此ノ類ノ法ヲ分チテ、四箇トス、曰
ハク直説法、曰ハク不成法、曰ハク疑問法、曰ハク
命令法、

○直説法ハ、單一ナル働キラ言ヒ顯ス者ナリ、即
書ヲ讀メリ、字ヲ習フ、算ヲ學バント云フ文、
習フ、學バン等ハ、皆其ノ純一ナル働キラ顯
セリ、凡文章中、此ノ直説法ニ属スル者、最居多ナ

不成法

リトス、

○不成法ハ、總ベテ單一ニ説キ出シタルト、打
チ返シテ、成シ遂ゲレメザルカヲ顯ス者ナリ、即
書ヲ讀マザリキ、字ヲ習ハズ、算ヲ學バザラント
云フ文ノ、ザリキ、ザラ等ハ、皆其ノ事ヲ成シ遂ゲ
シメザル働キラ顯スナリ、其ノ他、讀マンヤノ如
キ反語モ、同ク不成法ナレ共、若讀マザラント
云フ片ハ、却リテ讀ム方ノ義ナルガ故ニ、不成法
ヲ帶ビタル直説法ト知ルベキナリ、
成法ナリ、讀ミ難ク、學ビ難ク、
ノ難ク、兼ス等ハ、是ニ異リ、

疑問法

○疑問法ハ、疑事ヲ問ヒ、掛クル^トヲ顯ス者ナリ、
即讀ムカ讀マザルカ、學ブヤ學バザルヤト云フ
文ノ如ク、問ヒヲ顯ス者ヲ云フ、但シ讀マザルカ、
學バザルヤノ如キハ、不成法ヲ帶ビタル疑問法
ト知ルベキナリ、

命令法

○命令法ハ、或ハ命ジ、或ハ願ヒ、或ハ戒メ、或ハ許
ス、等ハトヲ著ス者ナリ、讀メト云ハバ、勸メ命ズ
ル意、教ヘラレヨト云ハバ、願ヒ望ム意、勸ムバシ
ト云ハバ、訓ヘ戒ムル意、來レカシト云ハバ、許シ
可ク意ナリ、然レ共、總ジテ人ニ命ズル意ヲ顯ス

者ナリ、其ノ中忘レザルベシ、怠ラザレノ如キハ、
不成法ヲ帶ビタル命令法ト知ルベキナリ、
等ノ語ハ、命令法
ニ非ザルナリ、

以上四箇ノ法ヲ以、無數ノ動詞ヲ分領スル^トナ
レ共、初學ノ覺リ難カラシメテ、怒レ、小文一節ヲ舉
ゲテ以之ヲ示ス、則左ノ如シ、

靜ハ鯨波ノ聲ニ驚キ、直判官殿ヲ押シ動カシ直
テ、敵ノ寄セタル直ト申セ直共、前後モ知ラズ不
卧シ給フ、直唐櫃ノ蓋ヲ啓ケ、直御著セ長ヲ取リ
出シ、直御身ニ投ゲ掛ケタリケレ直バ、ガツバト

起キ給ヒ、直何事ヤラン疑ト宣ハ直バ、敵ノ寄セ
直テ候フ直ヅト申シケレ直バ、天晴レ女ノ心程
氣色カラヌ下者ハ無シ、不思フ直ニ土佐メコソ
寄セツラ人、直人ハ御座セ又カ、疑彼追ヒ拂ハ
命ト宣ヒケリ直

分詞

美船
笑と顔
ヤサシキ人

○分詞ハ、動詞ト同體ナル者ナリ、其ハ常ニ名詞
ハ上ニ在リテ、之ヲ形容シ、動詞ト形容詞トヨリ、
一半ツ、分ケ前ヲ取リタルト云フヲ以、之ヲ分
詞ト名ク、例ハ、心ヲ思フ、見ル物、聞ク物、
付テ来キ、出キ、ト云フ、如ク、見ル、聞ク、ハ

發音

如キ語ハ、何レモ物ト云フ名詞ヲ形容スレ共、全
ク形容詞ノ體ニ非ズ、去リテ通常ノ動詞トモ
變リテ其ノ意味一偏ニ下ノ名詞ニ掛ルナレバ、
則雙方ヨリ、一分ヲ得タル者ニレテ、之ヲ分詞ト
スルナリ。

助動詞
帶ビタル
分詞

○分詞ハ、其ノ體動詞ト同キガ故ニ、助動詞ヲ帶
ビタル儘之ヲ用フルヲ甚多シ、即此ノ歌、天地ノ
開ケ、創リケル、時ヨリ出テ來ニケリ、ト云フ文ノ
開ケ、創リケル、ノ如シ、

成句分詞

○成句ハ、以分詞ヲ形ル者アリ、之ヲ成句分詞ト

成動詞

云フ即花ニ啼ク鶯水ニ住ム蛙ノ聲ヲ聞ケバト
 云フ文ノ如キ唯啼ク住ムノ語ノミヲ以鶯ト蛙
 トニ蒙ラシメタルニ非ズ上ノ花ニ水ニト云フ
 語ヨリ併ハセテ之ヲ蒙ラシメタル者ナリ其ノ
 他色愛襲キ漢竹ノ笛ヲ香モ睦キ錦ノ袋ニ入レ
 テト云フ文モ唯愛襲キ漢竹睦キ錦ノ袋トノミ
 云ヒテハ充分ニ意味ヲ成サズ上文ノ色香ヨリ
 併ハセ撰ケテ其ノ意味始メテ明盡スルヲ以、其
 ノ成句令詞タルヲ知ルベシ、
 ○削動詞ノ上ニ他ノ詞ヲ帶ビタル者モ熟語トナ

リタルキハ則合成シテ一ノ動詞ト見做スベキ
 ナリ即氣遣フ心苦シ直諫ス熟讀スノ類モ其ノ
 語ヲ分解スレバ氣ト心トハ名詞直ト熟トハ副
 詞ナレ共何レモ熟語ナルヲ以、一ノ動詞トスル
 ナリ、之ヲ分詞ニ用フルキモ亦同ト知ルベシ、
 淑按ズルニ、西洋ノ動詞ハ、人稱數及ビ時ニ由
 リテ、以其ノ語末ヲ變ズ、而又不規則動詞許多
 アリテ、各自其ノ形ヲ擅ニス、繁雜ト謂フベキ
 ナリ、吾ガ國ノ動詞ハ、獨語次ニ由リテ、其ノ末
 ヲ變ズレ共、人稱ト數トノ累無ク、且不規則動

詞中ニモ、自兩三箇ノ規則アリテ、以之ヲ統フ、簡易ト謂フマキナリ、然レ共吾ガ國ニ於キテハ、則動詞活用ノ圖ニ示スガ如ク、四段一段以下種々ノ變化ヲ興シ、之ニ加フルニ、助動詞ノ時ヲ顯ス者許多アリテ、種々ニ其ノ意ヲ變カルガ故ニ、其ノ法稍繁雜ナリ、然ルニ西洋ニ於キテハ、四段一段等ノ如キ變化全ク之無ク、且時ヲ顯スノ法、至リテ簡易ナリ、之ヲ要スルニ、彼此繁簡相半スト雖、吾ガ國ノ動詞活用ト云フ者、之ヲ西洋動詞ノ繁法ニ以スレバ、其ノ法

更ニ繁ナル所アリ、故ニ動詞ヲ論ズル者、先之ヲ熟知セズンバアル可カラザルナリ、又按ズルニ、助動詞中ノタリタルナリナルノ如キ、其ノ語ノ本質ヲ論ズルハ、何レモ後詞ト動詞トノ合セル者ナリ、其ノ故ハ、タリタルハ、則ニテ在リニテ在ルノ約リタル者ナリナルハ、則ニ在リニ在ルノ約リタル者ナルヲ、遂ニケリケルナド、同ク、之ヲ助動詞ニ用フルト為リタルナリ、又人或ハ誤リテ、アルト云フ語ヲ以、助動詞トスル者アリ、蓋其ノ誤リヲ

致ス所以ノ者ハ、タリ・タル・ナリ・ナルノ本質ヲ、
 分チ誤リタルヨリ始リタルニ非ズ、則西洋ノ
 助動詞ヲ譯スルニ、我がアルノ語ヲ以セシニ
 由リ、遂ニ之ニ牽カレテ、以助動詞ト思ヘルニ
 過キザルノミ、抑アルハ則在スノ義ニテ、一ノ
 動詞タリ、故ニ余デアアル人ニテアルト云フハ、
 余デア在ス人ニテ在スト云フナリ、元來此ノ
 在スノ語ニ付キテハ、雅俗共ニ數種ノ異ル言
 葉アリ、即侍ル候フ御座スノ類、皆是在ス・在ル
 ノ義ニシテ、一ノ動詞ナリ、之ヲ要スルニ・タリ

タルナリナルノ類ハ、都バテ皆助動詞、而アル
 ハ則純然タル動詞ナルノミ、
 又按スルニ、動詞ノ法ハ、西洋ノ文法家モ、其ノ
 人ニ由リテ、區分小ク異ル所アリ、増シテヤ吾
 が國ノ動詞ハ、西洋ノ動詞ト、其ノ使用遙ニ異
 レバ、從フテ之ガ法モ、斟酌セザルベカラザル
 ナリ、既前ニモ論スル如ク、西洋ノ動詞ハ、大抵
 人稱ト數トニ由リテ、定リタル變化アレ共、中
 ニ就キテ、全ク固有ノ形ヲ變ゼズ、何レニモ通
 ジテ用フル者アリ、是ノ類ノ動詞ヲ以、不定法

トスルナリ、然ルニ日本ニテハ人稱ト数ト
ニ由リテ、動詞ヲ變化スルナキガ故、別ニ分
チテ不定法トナスベキ者アルナシ、是其ノ不
定法ヲ設ケザル所以ナリ、

五 副詞

○副詞ハ其ハ詞獨立タズ、毎ニ動詞ノ上ニ在リ
テ、以動詞ハ模樣ヲ精密ニ形ス、猶形容詞ノ名
詞ニ於ケルカ如キナリ、今其ノ種類ヲ細ニ區分
スルハ、則作為地位、時刻、分量、決定、非否ノ六項
ニ分ツ、作為トハ、自然ノ理勢ト、人物ノ死、為トヲ

論ゼズ、其ノ有リ様仕方ヲ顯ス、ヲ云フ、即漸晴ル
屢曇ル、善ク讀ム、悪ク書ク、何ゾ知ラン、
モ用フ、然レ共彼ハ疑ハシキ事物ノ代リニ用フ
ル者、而此ハ動詞ヲ強ク押サ、テ、以之ヲ反語ト
為シ、用シムル者故ニ、語ハ一ナレ共、豈能クセンヤ
其ノ用法ニ由リテ、異同アルナリ、
等ハ如シ地位トハ、其ハ場所ヲ指スヲ云フ、即何
レニ往ク、何レハ疑問代名詞ニモ用フ、但シ彼ハ
何處ニ至ル、是ハ何レノ處ハ古ク略シテ、名詞ト合ハ
ト云ハリ、及ビ此處其處彼處等是ナリ、時刻トハ、
時ハ前後遲速ヲ云フ、即何時カ成ルベキ、徐ニ問
フ、速ニ答フ、等ノ如シ、或ハ地位ノコ、ソコヲ時

刻ニ用フルアリ、是ニ於キラソコデ往ク等ノ
 如シ、分量トハ、其ハ大小多寡ヲ形スヲ云フ、即大
 ニ喜ブ、多ク興フ、頗高シ、甚卑シ、等ノ如シ、決定ト
 ハ、事物ヲ造ニ定ハルヲ云フ、即必為ス、實ニ然リ
 眈ト極ムル、誠ニ歎カハシ、屹度忘ルベカラズ、等
 ノ如シ、非否トハ、是非ニ拘ラズ、否ニ嫌ハ意ヲ云
 フ、即否ト云フ、又ハ否ト云フ、ト拒ミ、或
 ハ否ト嫌フ類ナリ、
 ○副詞ハ大抵形容詞ト類似セル者ニシテ、唯其
 ノ語尾ト、履ムマキ語トヲ異ニス、其ノ類四アリ、

形變セ
光副詞

語尾ニク
又含ム副
詞

第一形ヲ變セザル者、第二語尾ニクニ含ム者、第
 三後詞ハニ履ム者、第四動詞ヨリ變ズル者、
 ○第一形ヲ變セザル者トハ、初メヨリ副詞ニ造
 リタル語ニシテ、全ク語尾ヲ變ゼズ、又他ノ詞ヲ
 履マザル者ヲ云フ、即各屢唯殆稍略頗甚若噓等
 ノ類ナリ、又半渡ル、獨進ム、ノ如ク、名詞ノ形ヲ變
 ゼズシテ、副詞ニ用フル者アリ、亦此ノ法中ニ属
 スル者トス、
 ○第二語尾ニクニ含ム者トハ、即淺ク堀ル、深ク
 浚フ、高ク聳ユ、卑ク飛ア、早ク來ル、遅ク往ク、香ク

吹ク臭ク句ヲ嬉ク思フ樂ク送ル輕々ク言フ重
々ク見ク乱リガハシク為ル等ノ如シ是ハ形容

詞ニ於キテ何レモ語尾ニキラ含ム者ナリ

ニラ履ハ
副詞

○第三後詞ハニ入履ハ者トハ即明ニ寫ル愚ニ

考フ等ノ如シ又熟語ニモ之ヲ用フルトアリ即

丁寧ニ謝ス傲慢ニ言フ等ノ如シ是ノニハ多ク

名詞ヲ變シテ副詞トスル中ニ履ム者ニシテ形

容詞ニ於キテハナルヲ用フル者ナリ

遙適ノ如キハ形ヲ變ゼザル副詞ナレ共儘遙ニ

適ニノ如クニヲ履ムトアリ

右ノ外實ニ以ト云フマキラ實以ト云ヒ縱横ニ

格闘スト云フマキラ縱横格闘スト云ヒ及ビ丁

寧且深切ニ扱フノ丁寧ノ如キハ皆略シテ此ノ

ニヲ履マザルナリ

動詞ヨリ
變ナル副

○第四動詞ヨリ變ズル者トハ其ノ形ハ全ク動

詞ナレ共其ノ用法ニ由リテ副詞トナル者ヲ云

フ即行ク々々見ル泣ク々々去ル至リテ尊シ定

メテ然ラン等ノ如シ

古四類ノ外猶種々ノ後詞ヲ履ムトアリ即最モ

賢シ多クハ然リ斯クコソ有ラメ熟ト思フ等ハ

如キ是ナリ、但シ是ハ精密ニ語意ヲ顯サシガ為、
後詞ヲ用フレ共、若之ヲ用ヒザルモ、固ヨリ副詞
ニ相異ナキ者ナレバ、名詞ニニヲ添ヘテ副詞ト
為ス類トハ、自異ニシテ、規則ノ中ニ收ムベキ者
ニハ非ザルナリ、

○凡副詞ノ用法ニニアリ、曰ハク正用副詞曰ハ
ク變用副詞、

○正用副詞トハ、副詞ハ持テ前ハ用法ヲ失ハズ、
必動詞ハ上ニ副ハテ、以其ハ動詞ハ働キヲ詳ニ
形ス者ナリ、即會遇フ強ク撃ツ速ニ來ル等ノ如

正用副詞

變用副詞

シ、或ハ二三詞ヲ隔テ、動詞ニ副フ者アリ、即深
ク此ノ理ヲ知ル、徐ニ之ヲ入ニ問フ等ノ類ナリ、
又非否ノ語ハ、他ノ副詞ト其ノ揆ヲ異ニシテ、必
シモ動詞ノ上ニハ副ハザレ共、此ヲ以當然ノ用
法トスルガ故ニ、亦正用副詞トスルナリ、

○副詞ハ、元來動詞ニ副フヲ以正例トスト雖、又
屢他ハ詞ニ副ハテ、之ヲ變用ト云フ、即稍半
最東ト云フハ、名詞ニ副ヒタル者、正ニ是全ク是
ト云フハ、代名詞ニ副ヒタル者、大ニ赤キ色誠ニ
善キ人ト云フハ、形容詞ニ副ヒタル者、正ニ且實

ニ又ト云フハ、接續詞ニ副ヒタル者、而只正ニ正
ニ必ト云フハ重子テ副詞ニ副ヒタル者ナリ、是
等ハ皆變用副詞トスルナリ、

副詞中諸詞ヲ包合シテ之ニ副フ者アリ、誠ニ此
クノ如キハ、蓋此ヲ謂フナリ、等ハ如キハ、誠ニ蓋
等ノ詞皆其ノ全句ニ概ルナリ、是亦變用副詞ト
スルナリ、

數字ニ假
ル副詞

○**副**數字ハ、元來形容詞ニ屬スル者ナレ共、或ハ假
リテ以副詞トスルナリ、專ニシテ他ナキ意ヲ、
一ニ日本ニ望ム、一ニ倭ト云フ、一ト異ナリ、ト用フル

成句副詞

ガ如シ、其ノ他一向ニ一切ニ一モ、皆數形容詞
ニ非ザルナリ、何ントナレバ、唯向ニ一切ニトノミ
云ヒテハ、全ク意義ヲ為サズ、一ト熟シテ、後始メ
テ語ヲ成スヲ以ナリ、但シ一遍ニ兩度ニノ類ハ、
其ノ數字ヲ換ヘテ、二遍ニ三度ニト云ヒテモ、意
義ヲ成ス者ニテ、則數形容詞ヲ帶ビタル副詞ト
スルナリ、形容詞ノ序數ニ、第一ニ第二ニ、如
數形容詞ニハ非ザルナリ、
○**成**成句ヲ以、副詞トスルナリ、即思ヒ寄ラズ、
フ、約束セズニ置クノ類ナリ、是ハ思ヒ寄ラズ、ノ

全文が、遇フニ掛リ、約束セマニ、ノ全文が、置クニ
掛ルナリ、故ニ分チテ云ハバ、動詞不成助動詞及
ト後詞等ナレ共、併ハセテ云ハバ、成句副詞トス
ルナリ、

○副詞中ニ、他ノ詞ヲ合成シタル者アリ、此處其
處、彼處等ノ如キ、上ノ此、其、彼ハ代名詞、下ノ處ハ
何レモ名詞ナリ、是ハ元來合成ノ語ナルガ故ニ、
處ハ山ナリ、彼處ハ其ノ他、心苦ク思フ、手輕ク扛
海ナリ、等ノ如シ、其ノ他、心苦ク思フ、手輕ク扛
ガル、等ノ類モ、名詞ト動詞トノ合シタル者ナリ、
淑按スルニ、副詞ハ動詞ニ副フ者ト、他ノ詞ニ

副フ者トヲ論ズル勿ク、之ヲ動詞ニ比スレバ、
至リテ解シ易キ者ナリ、而吾ガ國ノ副詞ハ、西
洋ノ副詞ト、自同カラザル所アルヲ以、亦一々
之ニ倣フ能ハズ、今其ノ例ヲ擧ゲテ云ハバ、西
洋ノ形容詞ニハ、三ノ階級ト云フ者アリ、則定
級比較級最上級是ナリ、其ノ法、一ノ高キト云
フ定級ノ語ニテモ、語尾ノ變化ニ由リテ他物
ヨリ高キ意トナリテ、比較級ヲ形ルコトモアリ、
此ノ上モ無ク高キ意トナリテ、最上級ヲ形ル
コトモアリ、又ハヨリ最ノ意ノ副詞ヲ、別ニ添ヘ

テ、以兩級ヲ形ル₁モアルナリ、或ハ其ノ國ニ由リテハ、兩級共ニ語尾ヲ變ズル₁ナク、唯別ニ副詞ヲ副ヘテ、以之ヲ形ルアリ、然ルニ吾ガ國ニ於キテ、比較級ヲ為サント欲セバ、後詞ノヨリヲ用ヒザルベカラズ、若又最上級ヲ為サント欲セバ、副詞ノ最甚等ヲ用ヒザルマカラズ、畢竟西洋ニテハ、何レモ形容詞カ、又ハ副詞ニ屬スル者ナルヲ以、則其ノ詞中ノ一規則ト為シテ、論ズル₁ナレ共、吾ガ國ニ於キテハ、形容詞・副詞及ビ後詞ノ三詞ニ關係スル者ナレ

バ、一偏ニ合ハセ論ズベカラザルナリ、顧₁ニ階級ノ語ハ、日本西洋其ノ法ヲ同クセズ、而日本ノ語法ニ於キテハ、別ニ此ノ規則ヲ設クル能ハザルノミ、又按ズルニ何_{ナニ}何_{イッ}レ_{イカ}奈_ンノ如キ語ハ、疑問ノ意ヲ帶ビタル者ナレバ、疑問代名詞ノ中ニ屬ス₁ダキハ勿論ナレ共、其ノ用法ニ由リテ、語ハ變ゼザレ共、全ク代名詞ノ意ヲ含マズ、只動詞ヲシテ反語ト為サシムルガ為ニ用フル者ハ、使副詞ト為サ₁ルヲ得ザルナリ、且何_{ナニ}處_{ナニ}何_{ナニ}地_{ナニ}何_{ナニ}

時^ツ採ノ語ハ、全ク疑問代名詞ノ如キ意味ヲ持
 チタル者ナレ共、何レモ場所ト時トニ係ル語
 ナレバ、輕キヲ舍テ重キニ從フテ、亦副詞ト為
 サバルヲ得ザルナリ、是等ノ疑問ヲ含ミタル
 語ハ、代名詞ト副詞トニ分屬スルヲ以、殊ニ意
 ヲ用ヒテ、之ヲ辨明スベキナリ、
 又按ズルニ、日本ニテ用フル所ノ昔^シ今^{イマ}ノ如キ
 語ハ、何レモ一ノ名詞トスベキナリ、即昔ヲ
 今ニナス、今ハ昔等ノ語ノ如キ、全ク他ノ名詞
 ト、其ノ用法異ラザルナリ、或ハ此ノ語ヲ以、形

容詞又ハ副詞ト思ヘル者アリ、亦洋語ニ拘泥
 セルニ由リテ誤レルナリ、

六 後詞

○後詞ハ名詞及ビ其ノ他ノ詞ニ陪シテ以、種々
 ハ意味ヲ形ス者ナリ、日本ニテ説話ヲ為シ文章
 ヲ屬スルニハ、後詞ヲ用ヒザレバ、毫モ之ヲ作ス
 能ハザルナリ、即地球ハ大陽ヲ繞ル、月ハ地球
 リ小シ等ノハ、ヲヨリノ類、皆之ヲ後詞ト云フ、故
 ヲ以文章ノ賓主自他ハ、皆此ノ後詞ニ由リテ判
 然ト分ル、ナリ、譬ヘバ、吾ハ水ニ書クト云ヘバ、

單用後詞

吾ガ木ノ上ニ文字ヲ書クナリ、又吾ハ木ニ書クト云ハバ、吾ガ樹木ノ畫ヲ畫クナリ、吾ヲ木ニ書クト云ハバ、吾ノ像ヲ木ノ上ニ畫クナリ、吾ノ木ニ書クト云ハバ、吾ノ所持セル木ニ字ヲ書クコナリ、此ノ吾木書クノ三語ノ間ニ置ク所ノハハニヨリノ等ノ用法ニ由リテ、其ノ意味ヲ種々ニ變化シ來ルガ故ニ、説話文章共ニ之ヲ以甚緊要ナル者トス、今之ガ種類ヲ分チテ兩種トス、曰ク單用後詞、曰ハク重用後詞、

○單用後詞トハ、一字二字或ハ三字ハ別ナク、唯

重用後詞

一語ヲ以、充分ニ其ノ意味ヲ成ス者ヲ云フ、即ハバニヘトドヲカラガヨリダニダモソゾナドナガラナンノニヤヤラマデコソチデサハモス

○等ノ類是ナリ、

○重用後詞トハ、一字二字或ハ三字ハ別ナク、一語ニテハ、其ノ意味充分ニ達セザル中、之ヲ重子用ヒテ、以其ノ意ヲ達スル者ナリ、即ニハニゾニテニモハハトニトヲトゾトノトチトモドモヲバヲゾヲモゾトノハハニノトノヲノガノモモゾテハテトテゾテモデハヨリハヨリモマデモ

ナハモニサハトナシトノミヨリコソヨリノミ
ナガラノ等ノ如シ其ノ三箇重子タルハ即ニテ
ハニテゾニテモトニハトチモガトハガトモマ
デニハトノミガ等ノ如キ是ナリ其ノ四箇重子
タルハヤハトテノ如キ是ナリ尤是ハ至リテ稀
ナル者ナリ

動詞所屬ノ後詞

○以上無數ノ後詞中ニハハハハハ四語ハ動詞
ニハハ接スル者ニシテ他ハ詞ニ接スルハ非
ザルナリ因リテ之ヲ動詞所屬ノ後詞ト云フハ
斷テ參ラントテノ如ク副詞ヲ續ギ又ハ後詞
ノ重用ニ置クアレ共是モ斯クアリテ參ラノ

ト云ヒテノ略トレバ亦動詞所屬ヲ失ハガルナ
リ又俗話ノ余デ在ルノハ余ニテ在ルノ轉ナ
レバ動詞所屬ノテトハ
一様ニ論ズバカラズ

○後詞ハ其ノ數限り無キ者ナレバ一々其ノ使
用ヲ示ス能ハズ今小文一節ヲ左ニ掲ゲテ以其
ノ單用ト重用トノ別ヲ知ラシム其ノ他此ヲ以
類推スベシ

人ノ單田ヲ單論スル者訟ハニ單負ケテ單嫉サ
ニ單其ノ單田ヲ單刈リテ單取レトテ重人ヲ單
遣ハシケルニ單先道スガラノ單田ヲサハ重刈
リ持テ單行クヲ單是ハ單論シ給フ所ニ單非ズ

後詞、叙義

何如ニ單斯クハト重云ヒケレバ、單列ル者供、其
 ノ單所トテモ重列ルバキ理無ケレドモ、重僻事
 為ントトテ重參ル者ナレバ、單何處ヲ單カ列ラザ
 ラントトゾ重言ヒケル、理最笑カリケリ、
 ○後詞中其ノ用法ニ由リ、言葉同クシテ意ヲ異
 ニスルアリ、又ハ其ノ語意明白ナラザル者アリ、
 今其ノ類ヲ舉ゲテ之ヲ論ズ、則左ノ如シ、
 ハハ、必文中ハ主タル者ニ添フテ、或ハ之ガ解ヲ
 為シ、或ハ之ガ働キヲ為サシムル為ニ用フル者
 ナリ、即大閤ハ尾張ノ人ナリ、仁者ハ壽等ハ、文ノ

主タル大閤及ビ仁者ニ添ヒ、而下ノ語ヲ以、之ガ
 解ヲ為サシムルナリ、又大閤ハ匹夫ヨリ起レリ、
 仁者ハ憂ヘズ等ハ大閤及ビ仁者ニ添フテ、以、起
 レリト憂ヘズトノ働キヲ為サシムルナリ、或ハ
 動詞ニ添フテ見ルハ、聞クハ、ノ如ク用ヒ、副詞ニ
 添フテ、多クハ、斯クハ、ノ如ク用ヒタルモ、亦上ノ
 語ヲ主トシテ云ヒ起スナリ、
 ハハ、ハト同意ナレ共、動詞ニ添フテ、語勢ニ由、ト
 テ濁音ヲ用フルナリ、見レバ、聞ケバ、ノ如シ、
 ハハ、主客相對スル片、毎ニ其ハ客ニ添フテ、以、意

味ヲ顯ス者ナリ、例ハバ、余長崎ニ到ルト云ハバ、
 余ハ主ニシテ、長崎ハ客ナリ、故ニ長崎ニ添ノテ、
 以其ノ客タルノ意味ヲ示セリ、之ヲニノ本色ト
 ス、借此ノ他、猶種々ノ用法アリテ、其ノ意味大抵
 相似タリ、誠ニ丁寧ニ之ヲ見ルニ余ガ聞ケルニ
 等ノ如シ、是ハ全ク下ノ語ニ觀著センガ為ニ、添
 フル者ナリ、其ノ外、移リニケリナノ類ハ、格別意
 義ナキ者ト知ルベシ、
 ハハ、俗ニニノ替リニ用フ、即余長崎ハ到ルノ如
 シ、尤動詞副詞ナドニ添フニトハ、通ゼガルナリ、

トハ、哀ト思ハ、今来ントト斯クトダニノ如ク用フ
 ル外、桃ト柳トノ如ク、二箇以上ノ者ヲ別々ニ攀
 グルハ、之ヲ用フルコトアリ、畢竟トハ、上ヲ聴ト受
 ケ止ムル語ナルガ故、事物ヲ造ニ攀グルル用フ
 ル者ニシテ、何レノトモ皆同義ト知ルベキナリ、
 トヲ接續詞ト思ヘル者アリ、是ハ漢文ノ興ノ字、
 常ニ文ノ中間ニ在リテ、上下ヲ接續スルニ興ノ字、
 譯ヲ施シテ、トト讀ムヲ以、誤解シタル者ナリ、故
 ニ漢字ノ興ヲ、全ク離レテ考フキハ、其ノ義却リ
 テ明白ナリ、
 ハハ、上ハ語ヲ受ケルカヲ、之ヲ一先裏ハ打テ返
 ス義ヲ持テリ、問ハド答ハス待テド来ラズ等ノ

如シ、

ハハ、ニト同ク、客ニ添フ語ナレ共、花ニ問フト云
ハバ、吾ノ方ヨリ花ノ方ニ向キテ、働キ掛クルナ
リ、花ヲ問フト云ハバ、吾ノ方ニテ、花ヲ處置スル
ナリ、故ニニトヲト、均ク客ニ添フ語ナレ共、客ヲ
居ニテ、主ヨリ働キ掛クルト、主ハ客ニ客ヲ引キ
テ處スルトノ異ル所アルナリ、動詞ニ添ヒタル
時モ同事ナリ、

カハ、エエト云フ意ニ近シ、即尋ヌル者カラハ、
尋ヌル者エエト云フガ如キ意、吹クカラニハ、吹

クエエニト云フガ如キ意ナリ、

ハハ、ハト同義ニテ、説話ニ多ク之ヲ用ク、又ノ

ト同義ノ者ハ、下節ノノノ部ニ於キテ之ヲ論ズ、

文章ニハ、花開ク鳥啼クノ如ク、其ノ主タル者ニ、
全ク後詞ヲ添ハ、ガル者アリ、之ヲ説話ニ用フル
ク、鳥ガ啼クト云フナリ、

ハハ、東京ヨリ箱館ニ至ル一時ヨリ二時迄ノ

如ク、二ハ者ハ關係ヲ形ス者ト、我ハ彼ヨリ貧シ、

ノ如ク、二ハ者ヲ比較スルハトニ用フルナリ、是

ハ何レモ二ノ者ノ間ニ用フル語ナレ共、其ノ意

ハ自異ルナリ、

ハニ、ガモハ、是ハ斯クハルニ、其ニ反シテ、彼ハ斯
クハルト云、ハガ如キ意ヲ會スリ、干サヌ袖グニ
アル者ヲトハ、願ヒ、ノ如クナラズシテ、袖ノ乾ク
トモ無キ程ナルニ、反リテ戀ヒ、ノ為ニ、虚名ノ立
ツト云フ義、蔓草ダモ猶除クベカラズ、况君ノ寵
弟ヲヤトハ、草ノ如キ輕キ物モ除カレヌトナレ
バ、親キ弟ハ、猶更除ケヌト云フ義ナリ、但シ其ノ
語勢ニ由リテ、ダニトダモト一様ニハ用ヒ難シ、
ハハ、大抵上ニ勿ト云フ動詞ヲ置キテ、禁止ハ意
ヲナセリ、即春勿忘ソノ如シ、尤勿ヲ用ヒズシ

テ、禁止ノ意ヲナスモアリ、即疑ヒソノ如シ、
ハハ、花ハ散リケルノ如ク、上ヲ睨ト極メテ、動詞
ニ續ク語ナレ共、時トシテハ、汝ヲバ天下ノ為ニ
留ムルゾ、ノ如ク、語ノ終リニ用フルトモアリ、
ハハ、ナンドトモ用フ、物ヲハニ極ムカハ語ナ
リ、立テヨ坐レヨナド、等ノ如シ、
ハガヲハ、助動詞ノツ、ノ如ク、是ハ事ハ最中、他
ハ事ニ及バ意ナリ、即彈キナガラ謠フノ如シ、又
ハ前ノ事ヲ、一先扱ケル意ヲナストモアリ、即逢
上ハ逢ヒナガラ、左リナガラ、等ノ如シ、

ハハハ、ガト通ジテ用フル者ニシテ、ガノ所ニ
 リ、即人九ナシ歌ノ聖ナリケルノ如シ、助動詞ノ
 ナントハ、自異ルナリ、
 ハハ、毎ニガト通ジテ用フル者ニシテ、ガノ所ニ
 ノヲ置キ、ノノ處ニガヲ置クト多シ、鶯ノ啼ク人
 ノ行クランノハガニ換ヘ用ヒタルナリ、君ガ
 代梅ガ枝ノガハ、ノニ換ヘ用ヒタルナリ、之ヲ分
 タンニハ名詞ヲ以受ケル者ハハ、主トシ、動詞
 ハ以續テ者ハ、ガヲ主トス、縱使其ノ間ニ他ノ詞
 ヲ挟ムモ、其ノ意ノ注ク所ヲ主トスルナリ、

名詞ノ下ニノヲ添ヘテ、以形容詞トスルハ、既
 形容詞ノ條ニモ論シタル如クナリ、然ルニ白妙
 ノ衣墨深メノ袖ノ如キハ、形容詞ニ相異ナケレ
 共、多クハ上ノ名詞ヨリ、下ノ名詞ヲ領スル為ニ、
 ノヲ用フルナリ、故ニ秋ノ田ノ假リ庵ノ庵ノ苦
 ヲ荒ミト云フハ、秋ヲ以田ヲ領シ、田ヲ以假リ菴
 ヲ領シ、假リ菴ヲ以菴ヲ領シ、菴ヲ以苦ヲ領スル
 ナリ、是等ハ皆名詞ヲ累用シタル者ニシテ、形容
 詞ニハ非ザルナリ、其ノ他人ノ命春ノ夜ノ類、渾
 バテ此クノ如シ、元來ノヲ履ミタル名詞ヲ究論

スル片ハ、何レモ形容詞ト為サ、ルヲ得ガレ共、
姑其ノ語ノ輕重ニ由リテ、或ハ名詞トモ為シ、或
ハ形容詞トモ為スヤシ、

富士ノ山三笠ノ山清見ガ関外濱ノ如キハ、富
士山三笠山清見関外濱ト云フベキヲ語次ニ由
リテ、ノガヲ添ハタルナリ、故ニ是等ハ、其ノ儘一
箇ノ名詞トシテ、別ニ後詞ヲ分タザルベシ、
平ノ清盛源ノ義朝ナド、云フモ、姓ト名ノ間ニ、
ノヲ置ケ共、是亦平清盛源義朝ト云フト同ナ
リ、安藝守左馬頭ノ類モ、安藝國ノ守トナル、左馬

寮ノ頭トナルト云フ片ハ、ノノ字儼然タル後詞
ナリ、若官名トスル片ハ、讀法ニハノヲ用フル共、
文字ニハ之ヲ加フマカラズ、

ハハ、是ノミナラズ、如ク、他ノ後詞ト同法ニ
用フルトモアリ、又ハ、其是ノノノ如ク、語ノ畢リ
ニ用フルトモアリ、然レ共何レモ一ニシテ、ナ
キ意ナリ、

ハハ、古人願ヒノヤ、歎息ノヤ、詠メ、ノヤナド、種
々ニ分別セラレタレ共、之ヲ要スルニ、皆呼ビ起
ス意ノ語ナレバ、總ジテ之ヲ一類トス、但シカト

同様ニ、疑問ニ用フル者ハ、全ク同カラズ、
ハテハ、ヤラントモ用フ、是ハ物ヲ一ニ定メズ、小
ク疑ヒテ、含ミタル語ナリ、即行クヤラ戻ルヤラ、
又ハ、何ヤラント云フガ如シ、

ハテハ、何事ニ関ラズ、其ハ到ル處ヲ定ムル語ニ
シテ、則ヨリニ應ズル者ナリ、即神武帝ヨリ天智
帝ニ至ルマデ、如シ、尤其ノ用法ニ由リ、余ノミ
ナラズ人マデモ、如ク、ヨリト對セザルコトモア
リ、
コソハ、上ハ語ヲ最健ニ極ムル語ナリ、余コソト

云ハバ、唯一途ニ余ヲ極メテ、決シテ他ニ對スル
意ナドナキナリ、

ハハ、上ヲ受ケテ、下ニ授クル語ナリ、把リテ見ル
尋子テ之ヲ知ル、等ノ如シ、

ハハ、為テラ合ハセタル者ナリ、故ニ上ハ語ヲ
把テ消シハガラ、下ニ續クル語ナリ、即人ニ知ラ

レテ来ルハ、人ニ知ラレズシテ来ルノ義ナルガ
如シ、

ハハ、スラ共ニ、前ノカニダモト同義ナリ、故ニ其
ノ語ヲ互ニ交換シテ用フル共、其ノ義通ズルナ

モハ、他ハ事物ニ準ハ時用ハル者ナリ、人目モ草
モ、往クモ帰ルモ等ノ如シ、其ノ他最モ賢シ奈何
ニモ然リ、如ク意味甚輕キ者アリ、
以上論スル所ノ後詞、普通助動詞ト甚紛ハシキ
者アリ、其ノ分別ヲ知ラント要セバ、言語ハ起結
ヲ察スルニ如クハハシ、即後詞ハ言語ヲ起スル
主ハシ、助動詞ハ言語ヲ結スル主トス、稀ニハ、
ノミノ如ク、結語ノ形ニ用フル者モアレ共、是ハ
元來起語ナルヲ、轉ジテ結語ニモ用フルトナ

リタルナリ、

○重用ノ後詞ハ、何レモ前ニ歷攀シタル語ヲ、兩
意合シタル者ト知ルベシ、稀ニハトモ、
ク、小ク其ノ義ノ變スル者モアリ、又ハ助動詞ト
連合シテ、カハ、杯ト反語ヲナス者モアルナリ、

○同語法ヲ重子テ、下ニ後詞ヲ帶ブル者ハ、一々
其ノ語ヲ帶ビタルト異ルナシ、即帝義貞正成
ニ命ジテト云ハ、義貞ト正成トヲ併ハセテ、
ヲ加ヘタルナレバ、義貞モニヲ帶ビタルト同事
ナリ、山ヲ越エ川ヲ踰エテト云ノハ、越エニテ

一語ニテ
數語ヲ兼
ヌル後詞

ヨリテハタルト同ナリ

叔按ズルニ、古人ハ事疎ナルガ如クニシテ、及
 リテ能ク理ニ合フ所アリ、今余ガ論ズル後詞
 ノ如キ、古人之ヲ称シテ互爾遠波ト云フ、敢強
 ヒテ之ガ分別ヲ為サバルナリ、今人西洋ノ文
 章ニ拘泥シ、遂ニガノニラヲ名詞ノ格ト誤認
 シ、而シテトノ類ヲ以テ接續詞トス其ノ大略ハ、既
 名詞ノ後ニ論ジタレバ、今復之ヲ替セズ、夫吾
 ガ國ノ言語始ノテ立チテヨリ、年ヲ逐フテ外
 國ノ言語闖入シ、今日ニ至リテハ、遂ニ其ノ半

ニ居ルノ勢ニ至レリ、然レ共吾ガ國ノ語法、上
 古ヨリ今日ニ至ル迄、前後上下未曾混淆セザ
 ル所以ノ者ハ、則後詞ト助動詞トヲ其ノ間ニ
 交ヘ、以其ノ義ヲ達スルニ由ルノミ、且凡言語
 ニ就キテ、微細ノ意味ト雖之ヲ悉シテ以漏サ
 ヲル、恰麻姑ヲ雇フテ、癢處ヲ爬クガ如クナ
 ル者ハ、即此ノ兩詞ノ諸詞ヲ調和シテ、以其ノ
 義ヲ顯スニ頼ルノミ、故ニ此ノ兩詞、常ニ文中
 ニ在リテ、互ニ相呼應シ、以其ノ義ヲ盡ス、猶
 常山ノ蛇ハ、首尾相救フト異ルナキノミ、

又按ズルニ、後詞ハ語尾ヲ變ズルナク、又其ノ位置ニ由リテ、他ノ詞ニ變ズル等ノナシ、况成句合成ヲ以之ヲ形ルナク、故ニ其ノ體他ノ詞ト全ク異ニレテ、甚辨シ易キ者トス、

七 接續詞

○接續詞ハ、諸詞ノ中間ニ在リテ、前後ハ言語文章ヲ斷ズガハ、様ニ續ク者ナリ、即山又山行キ且觀ル又ハ學ビテ而時ニ之ヲ習フノ類ノ如シ、其ノ語大抵且而則但シ、備猶又將等ノ如シ、
○接續詞ニ、單用重用ノ別アリ、至レハ則去ルノ

單用接續詞

如ク、一語ヲ用フル者ヲ、單用ト云ヒ、且又將又猶且ノ如ク、二語重子タル者ヲ重用ト云フ、

○接續詞ノ後詞ヲ履ムハ、固ヨリ一定ノ規則アルナシ、即又ハ又モ、備ヨリノ如シ、是ハ唯語勢ノ便ニ從フテ用フル者ニシテ、縱使之ヲ履ムモ履マザルモ、均ク接續詞タルヲ失ハザレバ、法アリテ然ルニハ非ザルナリ、

○接續詞ニ動詞狀ノ者アリ、副詞狀ノ者アリ、及ビ、並ビニノ如キハ、元來動詞ノ狀ヲ持チタル者、故ニ遂ニノ如キハ、副詞ノ狀ヲ備ハタル者ナリ、

動詞狀副詞、接續詞

唯其ノ前後ヲ續クノ語ナルヲ以之ヲ接續詞ト
スルナリ、

以ハ、動詞トモ為リ、又ハ動詞状ノ接續詞トモ為

レリ、即誠ニ富ヲ以セズノ以ハ動詞、人以詣ヘリ

トスノ以ハ、動詞状ノ接續詞ナリ、此ノ別察セザ

ルベカラズ、

西訓異義

○亦復則乃即ノ如キハ、同訓ナレ共、元來其ノ意

異ルガ故ニ、漢字ヲ以書スル中ハ、或ハ接續詞ト

シ、或ハ副詞トスルナリ、我亦往クハ、我モ往クノ

意ナレハ、接續詞トシ、我復往クハ、我再往クノ意

ナレバ、副詞トスルナリ、呼ババ則來ルハ、呼ベバ

來ルノ義、呼ベハ即來ルハ、呼マハ直ニ來ルノ義

ナリ、是亦察セザルマカラズ、

合成接續

○而況加之就中等ノ語ハ、別段其ノ訓ヲ分タズ、

其ノ文字ニ就キテ、以合成接續詞トスベシ、是ヲ

以是ノ故ニ、然レ共左ル程ニ、ノ如キハ、現ニ諸詞

ノ合シタル者ナレ共、何レモ前後ヲ結ビ付クル

語ナルヲ以、合成接續詞トナスモ、害ダナキナリ、

淑按ズルニ、後詞ノテ、テニ、ヲトトモ、ヨリ、バ、ド、

トモノ類、古人之ヲ稱シテ受クル辞トス、是上

ヲ受クルノ語ナルヲ以ナリ、故ヲ以人皆以謂
ヘラク、是則接續詞ト、安ゾ知ラン更ニ接續詞
ノ語アルヲ、夫謂フ所受クル辭ヲ以接續詞
トナス時ハ、其ノ他ハモソヤコソノ類、何レカ
接續詞タラザラン、而且則ノ如キ語ヲ以、竟ニ
何レノ詞ニ属スマキヤ、古人ノ和語ニ就キテ、
受クル辭切ル、辭續ク辭等ヲ辨ゼラレタル
ハ、固ヨリハ品詞ヲ分ツノ趣意ニ非ザレバ、斯
クコソアラメ、今日洋文ニ倣フテ、以文法ヲ論
ズルニ至リ、此ヲ以接續詞トナスハ、謂フ所歟

ニ刻シテ劍ヲ求ムル者ノミ思ハザルヲ甚ク

八 感歎詞

○感歎詞ハ、言語文章ハ中ニ在リテ、喜怒哀樂及
ビ罵詈驚駭畏懼叱咤等ハ聲ヲ用ル云フ、一
ニ之ヲ間投詞トモ云ス、其ハ言語文章ハ間ニ不
意ニ投ゲ入ル、ヲ以ナリ、即イテイガオ、アナ
アラア、ノ類是ナリ、又俗中用フル所ノ感歎詞
ハ、甚多種アリ、即ハアアアアオヤヤアマアエ
イ、ノ類是ナリ、此ノ外人ヲ呼ビ掛クルニ、オ、イ、
モ、シト云ヒ、應フルニ、諾ハイト云フモ、皆中間ニ

合成感歎

投ダ入ル、語ナレバ、共ニ此ノ中ニ属スルナリ、
 ○一二語又ハ一二句ノ他ノ詞ヲ合成シテ、以感歎詞トスルヲアリ、即アラ笑止ヤ風ガ替ツテ候
 フ。アラ面白ノ浦ノ景色ヤナ等ノ如シ、
 他ノ語ヲ以感歎詞トスル者ハ、多クハ其ノ語ノ下ニ、助動詞ヲ帶ベリ、即哀キ哉イトホシヤ契リキナ等ノ如シ、

淑按ズルニ、西洋ニテハ感歎詞中ニ歡喜哀傷
 驚愕贊美等ノ區別ヲ、十餘種ニ立テリ、日本ニテモ、俗語ニハ各種ノ區別之ナキニ非ズト雖

大概ハ相通ジテ用フル者多キガ故、強ヒテ之ヲ分ツヲ須ヒザルナリ、

○以上言語ノ種類ヲ、八品ニ分チテ之ヲ論ズ、此ノ外八品詞中、何レノ詞ニモ關係ヲ持ツ所ノ語法アリ、今其ノ條目ヲ擧ゲテ之ヲ論ズ、

九 冠詞

○冠詞一ニ枕詞ト云フ、是ハ其ハ目指ス所ノ語ヲ言ヒ出サシガ為ニ、先其ハ上ニ置ク所ハ言葉ニシテ、甚意義アル者ニ非ズ、即平盤破ル神ノ世
 吳竹ノ世々列リ菰ノ乱ル、等ノ如キ是ナリ、是

ハ神ト云ハシガ為、千盤破ルト謂ヒ掛ケ、世ト云
ハシガ為、吳竹ト謂ヒ掛ケ、乱ルト云ハシガ為、
刈リ菰ト謂ヒ掛ケルナリ、畢竟神ヲ稱賛スル所
ヨリ、神ノ上ニ千盤破ルト云フ語ヲ置キ、世ト節
ト通スル所ヨリ、世ノ上ニ吳竹ト云フ語ヲ置キ、
乱ル、有リ様ヲ形サントスル所ヨリ、其ノ上ニ、
刈リタル菰ト云フ意ノ語ヲ置キタルナリ、然レ
共是ハ文ニテモ、歌ニテモ、只一語ヲ言ヒ出ス為
ニ用フルノミニシテ、全文全歌ニ關ル者ニ非ズ、
但シ近世ノ文ニハ、全ク之ヲ用フルナシ、

十 掛ケ詞

○掛ケ詞ハ概上ノ語未終ラザルニ、其ノ聲ヲ假
ハテ、直カニ下ハ語ニ轉スル者ヲ云フ、其ノ間、或
ハ音訓ノ全ク同キ者ヲ以、一語兩意ヲ成スニア
リ、何レモ一ノ語ニシテ、兩品詞ヲ兼スル者ナレ
バ、則同品ノ詞ヲ兼スルモアリ、又ハ異品ノ詞ヲ
兼ヌルモアリ、其ノ所ニ從フテ、之ヲ熟察スマシ
令例ヲ擧ゲテ以之ヲ證セン、即左ノ如シ、
憂キヲバ留メ又逢坂ノ、関ノ清水ニ袖濡レテ、末
ハ山路ヲ打チ出詞動詞ヨリ名ノ濱、沖ヲ遙ニ見渡

セバ、潮ナラヌ海ニ漕ガレ行ク、意ガレ行クト、共ニ動
 詞、身ヲ浮キ憂キノ聲ヲ假リテ、下ノ舟ノ浮キ沉二、
 駒モ轟ト踏ミ鳴ラス、勢多ノ長橋打チ渡リ、行キ
 向フ人ニ近逢フノ聲ヲ假リテ、下ノ語ニ江路ヤ、
 世ノ字憂トノ聲ヲ假リテ、下ノ名詞ニ轉々、江路ヤ、
 野々ニ鳴ク鶴モ子ヲ思フカト哀ナリ、
 古ノ文ニモ、掛ケ詞ハ重ニ記行杯ノ文ニ用ヒタ
 リ、但シ今世ノ文ニハ、多ク用ヒズ、

十一 複語

○複語ハ同一ハ語ヲ重テ用フル者ヲ云フ、名詞

代名詞ノ複語ハ、皆複數ヲ形ス為ニ用フルナリ、
 即山々川々夫々昆々ノ如キ是ナリ、形容詞以下
 ノ複語ハ、大抵其ノ意ヲ強クシ、又ハ優ニスル為
 ニ用フルナリ、即赴々肅々中々早々回リ回リ追
 ヒ驅ケ追ヒ驅ケ又々唯々猶々嗚呼々々等ノ如
 シ、獨後詞ハ、他ノ詞ニ添フテ重ヌルナリ、即是ハ
 々々打テ共打テ共等ノ如シ、

十二 熟語

○諸品詞中ニモ、屢論シタル如ク、元來言葉ハ一
 箇々々ノ者ナレ共、遂ニ二三語ヲ合ハヤ熟シテ、

以一語トナシタル者甚多シ、例ヘバ形ト云フ名詞ト、作ルト云フ動詞トヲ合ハセテ、形ルト云フ語ヲ創メ、思ヒト云フ動詞ト、計ルト云フ動詞トヲ合ハセテ、慮ルト云フ語ヲ創メ、然ルト云フ動詞ト、ガ及ビユエト云フ、二ノ後詞トヲ合ハセテ、故ト云フ語ヲ創メタル如キ類是ナリ、是等已熟語トナリタル上ハ、全ク一語ト認メ、其ノ品種ヲ分ツニ及バザルナリ、故ニ多ク簡多ク驢多ク導多クク願ル多ク近多クツク遠多クザクノ類、皆一語トナシテ讀ムベキナリ、其ノ他至極多ク拝借ノ類ハ云フニ及バズ、無理・非道ノ如

キモ、其ノ義ハ理無ク道ニ非ズト、上ニ及レ共、是亦音讀シテ、熟語トナリタル上ハ、前同様一語トナシテ讀ムベキナリ、但シ每度多クヲ度多ク毎多ク不快多クヲ快多クカラズト分チ書キタル中ハ、其ノ詞ニ從フテ、品種ヲ定メザルヲ得ザルナリ、
 早梅半開ノ如キ語甚多シ、皆熟シテ一語トナズトナリ、若再之ヲ折チテ論ズルキハ、早ハ則形容詞、梅ハ則名詞、半ハ則副詞、開ハ則動詞ナリ、然レ共通常八品詞ヲ論ズル上ニ就キテハ、獨合成シタル語ノ之、之ヲ分ツニ及バザルナリ、是非共可

否ヲ争フノ類ハ、是共非共可ヲ争ヒ否ヲ争フノ
意ナレバ、何レモ一ノ名詞ニシテ、熟語ニハ非ガ
ルナリ、

参 文章論

○文章ハ已ノ思フ所言フ所ヲ記ス為ニ、種々ノ
詞ヲ組ミ立テ、以其ノ意味ヲ達スル者ナレバ、
則前ニ論シタル八品詞ヲ、各其ノ法則ニ従フテ、
以集成シタル者ナリ、故ニ其ノ一言ニ就キテハ、
之ヲ詞ト云ヒ、二言三言ヨリ、千萬言ノ多キニ至
ル迄、其ノ集成シタル者ハ、総マテ之ヲ文章ト云
フナリ、

一 起語結語

○凡文章ヲ作ルニ方リ、諸種ノ詞ヲ法則ノ如ク

ル	ム	フ	ツ	ス	ク	シ	リ	キ	又
降契 ルル	帰佳 ラム ン	思言 フフ	待打 ツツ	假残 スス	行書 クク	嬉善 シシ	夕有 リリ	答問 ヘヒ キキ	絶成 エリ 又又
						キ	ル	シ	又 ル
						嬉善 キキ	夕有 ルル	答問 ヘヒ シシ	絶成 エリ 又又 ルル
レ	メ	ヘ	テ	セ	ケ	ケ	レ	シ	又 レ
降契 レレ	帰佳 ラム メ	思言 ヘヘ	待打 テテ	假残 セセ	行書 ケケ	嬉善 ケケ レレ	夕有 レレ	答問 ヘヒ シカ カカ	絶成 エリ 又又 レレ

起語ノハ、モ、及、ビ、ノ、ハ、輕キ格、ハ、重キ者ニ從フテ之ヲ以テ、ニ、ノ、者、重ル者ハ、重キ者ニ從フテ、其ノ意盡クハ、ガ、ニ、通ナル者ニシテ、必動詞ヲ以テ、其ノ意盡クハ、動詞ノナリ、カ、ナ、ツ、ハ、ハ、ハ、モ、徒、ハ、ハ、ノ、結語トナルナリ、其ノ中、ナ、シ、ハ、何ヲ結ブモ、ア、リ、則ト命令ノ結語トナル、稀ニハ、折シモ、ア、レ、時シモ、ア、レ、ナド、結語ト為ル、モ、ア、リ、

○起結ノ法、已圖ニ示セルガ如クナレ共、若ハ格中ノ起語ヲ用ヒズシテ、他ノ起語ノミヲ用フルハ、第一ノ結法ヲ以テ之ヲ結ブトス、是ハ一々其ノ上ニ主字ヲ置カザレ共、則之ヲ置キタルト、同様ナルヲ以テナリ、例ハ、學ビテ而時ニ之ヲ習

フ・ト云フモ、必暗ニ余トカ、人トカ、吾人トカ、第一ノ起語ヲナス者アリテ、學ビ且習フ意ナレバ、則第一ノ結法ヲ用フルナリ、自餘ノ文章モ、皆此ノ例ヲ推シテ知ルベキナリ、

二 轉語略語

○起結ノ呼應スル法則ハ、既前ニ示シタルガ如クナレ共、更ニ轉語略語ト云フ者アリテ、以其ノ間ニ存ス、其ノ説左ノ如シ、

○轉語トハ、起語ニ應ジテ以之ヲ結ビ止ムハキハ、尚其ハ語意ヲ下ニ移シテ、以断タザルヲ云フ、

次ノ數節ヲ見テ之ヲ覺ルマシ、

○第一ノ結語モ、文勢ニ由リテ、其ノ儘下ニ轉ズルナリ、即吾モ知ル人、枝覆フテ等ノ如シ、

○第二ノ結語ハ、上ヲ結ビナガラ、下ニ轉ズルノ甚多シ、且第一ノ結語モ、下ニ轉ズルキハ、大抵此ノ語法ヲ以轉ズ、即吾ノ知リ又ル人、水流ル、川等ノ如シ、

○第三ノ結語モ、稀ニ上ヲ結ビナガラ、下ニ轉ズルナリ、即人コソ無ケレ共ノ如シ、又他ノ結語ヲ下ニ轉ズルキ、此ノ語法ヲ用フルナリ、即余

問へば草木ノ萎ルレバ等ノ如シ、
 諸此ノ轉語ト云フ者ハ、縱使一轉シテモ、二三轉
 シテモ、必其ノ下ニ於キテ、元ノ起語ヲ結ビ止ム
 ルトトス、例へば、木曾ハ今井ヲ振り捨テ、
 任セテ歩マセ行クト云フ文ノ捨テ、任セテハ、
 捨ツ任スト結ブマキヲ、其ニテハ、語意未満足セ
 ザルガ故、之ヲ結バズシテ、下へ移スヲ以、下文ノ
 歩マセ行クニテ、結ベルガ如シ、
 一二箇ノ轉語ヲ經テ、上ノ起語ヲ結ブトハ、則前
 ニ論ゼル如クナレ共、或ハ其ノ間、更ニハ格中ノ

起語ヲ生ズル片ハ、遂ニ上文ノ起語ヲ結ビ止メ
 スシテ、下文ノ更ニ生ジタル起語ヲ結ビ止ムル
 一アリ、即馬モ弱リ主モ疲レタリケレバ、兎角ス
 レ共、甲斐ハ無キト云フ文ハ、上ノ二ノモヲ結バ
 ズシテ、疲レタリケレバト轉シタル所、下文更ニ
 ヲラ生ジタル故、遂ニモヲ捨テ置キテ、
 為ニ無キト用ヒタルガ如シ、
 ○略語トハ、必起語ニ應ジテ、以之ヲ結ビ止ムヤ
 キテ、略シテ其ハ語ヲ用ヒザルヲ云フ、即何ノ器
 ヲト云フハ、何ノ器ナルゾヲ省キタル者、君ハ舟

臣ハ水ト云フハ、君ハ舟ナリ臣ハ水ナリト呼應
スベキヲ、全ク省キタル者、萬乘ノ國其ノ君ヲ弑
スル者必千乘ノ家ト云フハ、萬乘ノ國其ノ君ヲ
弑スル者ハ必千乘ノ家ナリト呼應スベキヲ、起
結共略シタル者ニシテ、則其ノ意ヲ言外ニ含マ
シメタルナリ、

三 起結轉略ノ用例

○前章擧グル所ノ、起結轉略ノ四法ハ、則文章ノ
關節ニシテ、決シテ乱ルマカラザル者タリ、今平
家物語中ノ文ヲ、節略シテ、以其ノ例ヲ示ス、即左

ノ如シ、

平等院ノ良立花ノ兒島嶺結スノ明神ノ御前ヨ
リ、武者コソ起二騎起出テ来レ、結、重キ者ニ一人
由リテ結ガ、一人
ハ起佐々木、四郎、略一人ハ起梶原源太、略生月磨
墨ニ乗り連レテ、引ツ驅ケ引ツ驅ケハ起出テ来
ル、結人目ニハ起何起トモ起見エ子轉ドモ、起心
計リハ起左ニ先ヲ争ヒケレ、轉ハ、起梶原源太、起
佐々木ニテ、計リハ起進ミタル、結佐々木起先
セラレバクヤ起思ヒケン、結何ニ梶原殿呼ビ截
ケル語
ヲ其ノ儘寫セル故、東國ニハ起利根川、略西國ニ
起結ノ法ニ合セズ、

日本書紀 卷之十

見ユルハ
ハ俗ニ見
ユルガ
意ナリ

ハ起此ノ川ヲコソ、起日本一二ノ大河トハ起申
由リテ結ス、中ニモ起此ノ川ハ起上モ起下モ
起早ク結ニシテ、馬ノ足利キ起少シ、結御遷ノ馬
ノ腹帯ノ起遙ニ伸ビ轉テ見ユル結ニシハ、起川
中ニテ鞍乗り返シ、過為給フナ、命令法ニ工、結締
メ給ハト云ハレテ、梶原起左モ起有テ結トテ、
手綱ヲバ、起馬ノ須弥ノ上ニ打チ置キ、轉燈踏
張リ轉衝イ立チ上リ、轉二締メ三締メ引キ締メ
ケル轉間、佐々木起ツト驅セ抜キ轉テ、川ハガ
アトハ起打チ入りタル、結梶原起之ヲ見テ結ニシ

テ、備ハ起吾君ハ起景季ヲ騙リケル轉ガヤ、其ノ
儀ナラバ、起一度迄モ起騙ラルマジキ轉者ヲト
テ、同ク續キテ颯トハ起打チ入りタル、結功名セ
ントテ不覺スナヨ佐々木殿、川ノ底ニハ、起定メ
テ大綱起有ラン、結馬乗り拭ケテ過スナト云ヒ
ケレドモ、起耳ニモ起聞キ入レズ、結渡シケリ、川
中迄ハ、起互ニ劣ラシ轉負ケシ轉ト渡シケレ轉
バ、起何レ起劣レリトモ起見エガリケル、結左レ
ドモ起佐々木ハ、起川ノ案内ハ起知リタリ、結生
月ト云ス、世一ノ馬ニハ起乗リタリ、起馬ノ足ニ

世継物語
三人ヲ煩
ハサジノ
為ニ云々
トアリ此
ノ乗リ掛
ケノ為ト
同一ノ語
法ナリ

結リケル大綱ヲバ、起大刀ヲ抜キテ、フツヤヤト
打チ切り打チ切り、轉サシモニ早キ宇治川ナレ
ドモ、起事トモ起為、結一文字ニ颯ト渡シテ、思
フ所へ打チ上リタリ、梶原モ起劣ラズ結ニシ
シケル結ニシガ、川中ニテ、大綱ニ馬ヲ乘リ掛ケ
ノ為側ニ押シ下ケラレ、轉邊ノ下ヨリ打チ上ゲ
タリ、結備コソ起宇治川ノ先陣佐々木二陣梶原
ト、日記ニモ起注ケラレタリケレ、結重キ者ニ
由リテ結テ、
○日本ノ文章ハ、首トシテ働クベキ動詞ヲ、他ノ
詞ヨリ後ニ置ク法ナレ共、漢文口氣ノ文ニハ、或

ハ之ヲ顛倒シテ、前ニ用フルトアリ、即未若カズ
貧クシテ而樂ミ富ミテ而禮ヲ好ム者ニハ、ノ如
シ、然レ共其ノ起結ハ、顛倒ノ儘ニ呼應スルナリ、
是亦知ラザル可カラズ、

四 變格

○變格トハ、文章ノ起結、前章ノ格ニ合セザルヲ
云フ、元來起結ノ格法ハ、前ニ擧ゲタルが如ク、嚴
整ナル者ナレ共、中古以來、漢文ヲ讀ムト盛リニ
為リタルニ從ヒ、其ノ讀法ニ由リテ、和文ヲ屬ス
ルトアルが故ニ、遂ニ一二箇ノ格法ニ合セザル

者出テ來レリ、畢竟起結ノ格法ニ合セザルハ、正
キ文トハ為シ難キ道理ナレ共、後世ハ盛リニ之
ヲ用フルトナリテ、復挽回スマカラザル勢ニ
至リタレバ、則法外ノ一法ト為サミルヲ得ザル
ナリ、蓋ヤト疑問トノ起語ハ、必第二ノ結語ヲ以、
結アベキ筈ナルヲ、其ノ格ヲ破リテ、第一ノ結語
ヲ用フルトアリ、即左ノ如シ、
賜ヤ過ギタリ商ヤ及バズト云フ文ハ、格法ニ由
レバ、賜ヤ過ギタル商ヤ及バズト呼應スベキ語
勢ナリ、然ルヲ漢文ノ讀法ニ由ルハ、過ギタリ、

及バズト云ハズシテハ、語調甚悪シ、因リテ、其ノ
格ヲ破リテ、斯ク結ブトス、其ノ鳴クヤ哀其ノ
言フヤ善シノ如キモ、皆此ノ例ナリ、
孰カ之ヲ命ズ、孰カ之ヲ與フト云フ文ハ、格法ニ
由レバ、孰カ之ヲ命ズル、孰カ之ヲ與フルト呼應
スベキ語法ナリ、然ルニ漢文ノ讀法ニテハ、命ズ
ル、與フルトモ用ヒ、又ハ命ズ、與フトモ用フル
アリ、

五 文中ノ符號

○書卷中、文章ノ句讀、字眼及ビ趣意等ヲ示ス為

三、之ガ符號ヲ用フルコトアリ、今古來用ヒ來ル者ヲ擧ゲ、之ニ附スルニ、又聊已ノ考フ所ヲ以ス、其ノ種類大略左ノ如シ、

、尖點ハ、文中ノ一句々々ヲ分ツ為ニ、其ノ句末ノ右傍ニ點ス、或ハ之ニ代フルニ〇小圈ヲ以スル者ヒアリ、又獨立格ハ後詞ヲ用ヒザルカ故ニ、下ノ名詞ト連續スルノ恐レアルヲ以、其ノ下ニ、尖點或ハ小圈ヲ用ヒテ以分ツベシ、

・圓點ハ、諸種ノ名詞或ハ成語等ヲ連子擧ゲタル中、之ヲ分断シテ、辨ジ易カラシムル為ニ、中間

ニ用フ、余ガ文典ニハ、引用スル古書ノ文、及成語等、皆圓點ヲ用ヒテ之ヲ分ツ、

○大圈ハ、題目又ハ每章ノ首メニ置キ、又其ノ箇條ヲ分ツ、

ㄥ 句畫ハ、一文章ノ結末適行中ノ最下ニ書キ、誦メタル中、其ノ次ノ行ト、同文ナラザルヲ示ス為ニ、之ヲ用フ、

一 單批ハ、大概音讀スベキ熟語ノ中間、或ハ其ノ右旁ノ字間ニ引キ、又ハ訓讀スベキ語ノ左旁ノ字間ニ引ク者ナリ、其ノ他外國ノ語ヲ寫スニ、長ク延ク聲ノ字ハ、其ノ下ニ之ヲ引キテ、以其ノ印

トス、即歐羅巴波得等ノ如シ、
 〓雙枕ハ、讀ム者ノ眼ヲ注クベキ文字、及ビ成語
 ノ右旁又ハ左旁ニ附シテ、以之ヲ曉リ易カラシ
 ム、或ハ小圈ヲ用フルアリ、
 〇〇〇連圈及ビ、〃〃〃連點ハ、共ニ文章ノ
 趣意又ハ佳境ニ至リタル片、其ノ眉目ヲ醒サシ
 メンガ為之ヲ其ノ右旁ニ用フ、
 々、略字ハ、同字ヲ兩箇重ヌル片、其ノ下ノ字ニ
 代用ス、或ハ熟字ヲ重ヌル片ハ、從フテ略字モ重
 用スルアリ、尤真片假名ノ文ニハ斯クノ如キ

符ヲ用フレ共、行草及ビ平假名片假名等ノ文ニ
 ハ、一字ノ略字ハ、〓ヲ用ヒ、二字以上ノ略字ハ、
 〓用フルトス、
 右ノ外、書物ノ品類ニ由リテ、猶他ノ符號ヲ用フ
 ル者アレ共、今皆之ヲ略ス、

淑按スルニ、吾ガ國ノ文章ハ、既屢論セルガ如
 ク、他動詞ヲ用フベキ所ト雖、必主客ノ名詞ヲ
 先ニ置キ、而後動詞ヲ用フルノ法ナレバ、其ノ
 主ニ從フ起語ト、結語ト、他ノ語ヲ隔テ、以相
 對スルナリ、況中間教箇ノ轉語ヲ用ヒ、數十語

ヲ連子テ而後之ヲ結アラヤ、是ヲ以人或ハ其ノ起法ヲ遺レ、而前後不倫ノ結法ヲ用フルアリ、其ノ誤リ全ク數十語ヲ隔ツルノ故ニ出ツト雖、亦其ノ語ノ起ル所ト、其ノ意ノ盡クル所トヲ、念ハザルニ坐スルノミ、故ニ文章ヲ作ルニ當リテハ、必能ク起結ニ注念シテ之ヲ誤ラザルヲ第一トス、蓋吾ガ國ノ語法ハ、自三種ノ格ニ應ジテ、以其ノ結法ヲ異ニスベキ語勢ナルヲ、古昔ト雖、俗間ノ語ハ、轉訛省略スルノ多キガ故、遂ニ起結其ノ法ニ合セザルノモ、出

テ来リタルナリ、然レ共斯ク法則ヲ立テ、論ズル所ハ、甚繁雜ナルガ如ク思フベケレ共、今日吾人用フル所ノ說話モ、知ラス識ラズ、此ノ法ニ合セルナリ、故ニ先其ノ大綱ヲ領スレバ、自餘ノ細目ハ、從テ解スベキナリ、抑言語ヲ八品ニ分テ、委悉之ヲ論ズル者ハ、果シテ何ノ為ゾヤ、豈之ヲ併ハセテ、以文章ヲ作ルニ供スルニ非ズヤ、而文章ヲ作ルニ當リ、其ノ起結法ニ合セザル所ハ、譬ハバ猶馬ヲ畫ク者ハ、其身ヲ馬ニシ、而其ノ蹄ヲ牛ニスルガ如キナ

リ、頭背鬣尾馬ナル哉ト云フト雖安ク能ク之ヲ真ノ馬トスルヲ得ンヤ、

肆 音調論

○音調論ハ、言語歌行ハ發音格調ヲ説ク者ニシテ、言語ニ就キテハ、緩急曲直ハ聲ヲ論シ、歌行ニ於キテハ、長短異同ハ節ヲ論ス、

一 緩急音

○凡言語ニ緩急アルヲハ、古今必アルノ道理ナレ共、日本ニテ、中古ヨリ一種言語ヲ婉柔ニ使フヲ始リタリ、是ハ判然タル音聲ハ、耳ニ強ク觸ルハヲ避ケテ、其ノ近キ音ノ柔ナル者ヲ代用スルヲトナリタリ、即算カキヲカウガイ、疊紙タミヲタトウガ

ミ、斯クヨカウ、兎角ヲトカウ、増シテ刺シテラ増
 イテ刺イテ書キテ行キテ於キテラ書イテ行イ
 テ於イテ哀キ哉久キ哉ヨ哀イ哉久イ哉ト云フ
 ガ如シ、此ノ類枚擧スルニ暇アラズ、又漢文ヲ讀
 ムニ由リテ、一種言語ヲ急強ニ使フテ始リタリ、
 即涕ヲナシテ、貴シラタツトシ、撃クヲツンザク、
 撃チテヲ撃ツテ、取リテヲ取ツテ、戦ヒテヲ戦ツ
 テ、何ニヲ何ニ、盛リヲ盛ント云フガ如シ、此ノ緩
 急兩種ノ使用始リテ後、俗語ニハ多ク之ヲ用フ
 ルトトナリタリ、今文章ニ就キテ之ヲ論ズレバ、

其ノ音ハ再改ムベカラズ共、文字ハ必正シク記
 スベキ道理ナレ共、斯クノ如ク使用盛リニナリ
 タル上ハ、兩種共ニ之ヲ用フルモ、不可ナルト無
 カルベシ、

ニ 曲直音

○音聲ニ曲直ノ別アリ、是ハ同音聲ニ出ル語ニ
 テモ、曲直ノ差別ニ由リテ、全ク其ノ義ヲ異ニス
 ルヲ云フ、即橋ト箸、飴ト雨、氣ト木、墨ト隅、事ト琴、
 釜ト鎌、葉ト齒ノ如キ、橋、飴、氣、墨、事、釜、葉等ハ、皆直
 音、箸、雨、木、隅、琴、鎌、齒ハ、皆曲音ナリ、此ノ類假名ヲ

日本文典 卷之十 六五

以書ス片ハ、毫モ其ノ別ナキガ故ニ、前後ノ文章ニ由リテ、覺リ得ルヲナレ共、今時ハ大抵漢字ヲ以書ス故ニ、一目シテ之ヲ知ルヲ得ルナリ、

三 熟語音

○二三箇重リタル熟語ハ、大抵下ハ語ヲ濁リテ讀ムナリ、即公達長刀鬼瓦耳盤日本橋宇治川ノ類是ナリ、然レ共下ハ語ハ末ニ濁音ヲ含ミタル者ハ、其ノ上ノ音ヲ濁ルヲナシ、即畫筆朱硯犬蓑烏蛇ノ類是ナリ、或ハ其ハ言ヒ習ハヒニ由リテ稀ニハ全ク濁ラザル者モアリ、糸薄大虚白紙赤

土ノ類是ナリ、又熟語ハ下ニ付ハ語ハ末ニ濁ルベキ音ヲ含ミテモ、濁ル能ハザル音ト連リタル語ナレバ、是又濁ラズ、即初雪三影石備前燒キ等ノ如シ、其ノ他清濁兩用ノ者アリ、唐衣大阪ノ類是ナリ、是亦古來ノ習慣ノミ、

熟語中ニ、上ハ語ハ末音ヲ變シテ用ラルアリ、
上書キラウハガキ、凡音ラツマラト、風待チラカ
ガマテ、白鷺ヲシラサギ、兩宿クアラマヤドリト
云フガ如シ、

漢語ノ熟字セル者、上ノ字ニシテ含ム片ハ、其ノ

下ノ字ノ音ヲ變ズルコトアリ、即三王ヲサシメ、
觀音ヲクワンノン、善惡ヲゼンナク、千篇ヲセン
ベント云フガ如シ、然レ共之ヲ文字ニ寫スルハ
必正シク書スベキナリ、
又ソ或ハツノ半音ヲ上ノ字ニ未合ムキハ、其
ノ下ノ字ヲ半濁音ニ變ズルコトアリ、即原本新板
ハ分一半等ノ如シ、

四 漢字音

○漢字ニ義理一ニシテ音二アル者アリ、一ヲ漢
音ト云ヒ、一ヲ吳音ト云フ、古ヨリ儒者ハ漢音ヲ

用ヒ、佛氏ハ吳音ヲ用フル習ヒナレ共、後ニハ儒
學衰ヘテ、佛氏ニテ之ヲ傳ヘタル程ニ至リタレ
バ、儒書ニテモ、自然吳音ヲ用フルコト數多アルナ
リ、現ニ書名サヘモ、詩經書經ト云ハズシテ、シキ
ヤウ・シヨキヤウト云フガ如シ、

○良縦行ノ五音ヲ語ノ首ノニ用ラル者ハ、漢語
ニ限ルコトナリ、即亂流樓禮魯等ノ如シ、
○總ジテ漢音ハ、盡日本ニテ用フル音ニシテ、漢
土ノ原音ニハ非ザレ共、古來廣東ノ人多ク吾ガ
國ニ到リシヲ以、或ハ廣東ノ土音ヲ以行ハル、

文字アリ、即提^{チカ}灯^チ行^{コウ}燈^{トウ}胡^コ乱^{ラン}臘^{ラク}干^{カン}明^{メイ}南^{ナン}京^{キョウ}等ノ如シ、
習用ノ久キ、遂ニ邦音ト並ビ行ハル、ニ至ル、是
等ハ、言語中ノ千分一ニモ當ラザル、至少ノ者ナ
レバ、暫治襲ニ從ヒ、其^{コノ}音^ヲ假^リ用^{フル}モ害^ゲ
無^ルルベシ、

○西洋ノ地名人名等、漢土ニ於キテ其ノ音ノ字
ヲ填テ、之ヲ用フルヨリ、吾ガ國ニ於キテモ、亦之
ヲ襲ヒ用フル者アリ、即佛^{フツ}蘭^{ラン}西^{スイ}英^{エイ}吉^{キキ}利^リ華^ワ盛^{セイ}頓^{トン}拿^ナ
破^ポ命^{メイ}等ノ如キ是ナリ、是ハ其ノ文字ヲ直ニ借ル
者ナレ共、亦用ヒテ害ゲナカルベシ、

五 音韻反切

○反切トハ、二音ヲ合ハセテ、一音ニ呼ビ、一音ヲ
開キテ、二音ニ呼ブ用法ヲナス者ナリ、之ニ從フ
テ其ノ文字モ、或ハ一字ヲ用ヒ、或ハ二字ヲ用フ、
諸其ノ二字ノ上ナル者ヲ父字ト云ヒ、下ナル者
ヲ母字ト云ヒ、而ニ字合シテ生シタル者ヲ子字
ト云フ、若其ノ子字ヲ得ント欲セバ、則父字ノ子
音ト、母字ノ母音トヲ合ハセテ、一聲ニ呼ブナリ、
例ハバ、落^{ラク}テニケ^ケリノケ^ケリニ結^{ケツ}キテ、之ヲ言ハバ、
ケハ父字、リハ母字ナリ、然ルニ元^{ゲン}来^{ライ}ケハク^クエノ

合音、リハル イノ合音ナレバ、則ク エノ子音ク ト
ル イノ母音イトヲ合ハセテ、キトナルナリ、故ニ
落チニケテ、落チニキト云ヒテモ、唯語ノ詰リ
タルノミニテ、意味ニ於キテハ、別ニ替ル ナキ
ナリ、此ノ反切ハ、五十音ノ圖式ニ就キテ按ズレ
バ、甚解シ易シ、則父字ノ ケヲ縦ニ リノ同行迄引
キ、母字ノ リヲ横ニ ケノ同行迄引ク 片ハ、其ノ帰
納ノ字、キトナルナリ、盤ヲ タラヒト云フハ、テ ア
ノ二字ヲ反セバ、其ノ帰納 タトナリ、恐ル ヲ恐ラ
クト云フハ、ラクノ二字ヲ反セバ、其ノ帰納 ルト

ナリ、曰フヲ曰ハクト云フハ、ハクノ二字ヲ反セ
バ、其ノ帰納 フトナルヲ以ナリ、其ノ他是ノ例ヲ
以知ルベシ、
父字ハ、必縦行ニ上下シテ、横行ニ通ハズ、母字ハ
必横行ニ左右シテ、縦行ニ動カザル ト知ルベ
キナリ、
父字母字共ニ同横行ニ在ル 片ハ、父字ニ帰納シ、
父字母字共ニ同縦行ニ在ル 片ハ、母字ニ帰納ス、
其ノ故ハ、父字ハ子音ヲ形シ、母字ハ母音ヲ形ス
者ナレバ、同横行ノ字ハ、何レモ母韻ヲ同フスル

故、父字ニ歸シ、同綴行ノ字ハ、何レモ母音ヲ異ニ
スル故、母音ニ歸スルナリ、

六 約音助音

○約音トハ、何レハ言語モ、固有ノ儘ニ用フマキ
者ナルヲ、語勢ニ由リテ、縮ム又ハ省ク者ナリ、即
聞キ度クアリシヲ、聞キ度カリシ、何モアレヲ、何
マレ、斯クアルヲ、斯カル左アル程ニ、ヲ左ル程ニ、
人ノ如クヲ、人ノ如、戀ヒスト言フヲ、戀ステス、持
チテ、ヲ持テ、有ラマク欲シ、ヲ有ラマク欲シ、有ラン
トスラン、ヲ有ラン、ズラン、ト云フ類ナリ、

○助音トハ、何レハ言語ニテモ、固有ノ儘ニ用フ
バ、カク、語勢ニ由リ、意義ナキ聲ヲ助ケ入ル、ナ
リ、即沖ツ波、頃シモ、松トシ、聞カバ、誓ヒテシ、侍ラ
ハヌ、無クンバ、行フユエ、ンノ者ト云フ類ナリ、此
ノ助音ノ文字ハ、總バテ後詞ニ屬スル者トス、

七 歌行文章ノ格調

○歌ハ則文章中ノ一部ニシテ、其ノ語ノ節奏ニ
適フヲ以第一トス、吾ガ國草昧ノ初メヨリ、人既
歌ヲ作ル事ヲ為セリ、然レ共當時ノ歌ハ、其ノ字
數定リ無カリキ、降リテ中古ニ至リテモ、猶字句

ノ長短齊カラザリシカ共、誰定ムル共ナク、遂ニ
素盞雄尊ノ讀ミ出デ給ヒタル、八雲起ツ出雲八
重垣妻籠メニ八重垣作ル其ノ八重垣ヲト云フ
歌ノ格調ニ據リ、五字・七字・五字・七字・七字・ト、其ノ
字句ヲ分ケ、而上十七字ヲ上ノ句トシ、下十四字
ヲ下ノ句トシ、合計三十一字ヲ以、一首ノ歌ト為
ス、ト為リタリ、

○歌ノ句ハ、五字・七字ヲ以定數トナセ共、或ハ五
字ノ句ヲ六字トナシ、七字ノ句ヲ八字トナシ、合
計三十二字トナス、トアリ、之ヲ字餘リト云フ、即

心當テニ^六折ラバヤ折ラン初霜ノ置キ感ハヤ
ル白菊ノ花忘ラル、身ヲバ思ハス誓ヒテシ人
ノ命ノ愛クモアル哉、^八字等ノ如シ、

一首ノ中、兩所ニ字餘リノ句ヲ用ヒ、元三十三字
ト為シタル歌アリ、即詭^クビヌレバ身ヲ浮キ草ノ
根ヲ断エテ誘フ水アラバ^八字行ナントガ思フ、^八
ノ如シ、

右ノ外、字句ニ種々長短アル歌ハ、皆古體ト為
ルヲ得ザレナリ、

○長歌ハ、句數多寡定リナシト雖、字數ハ、尚五字、

七字ノ定數アリテ、遽之ヲ用ヒ、而最後ニ至リテ、
 短歌ノ如ク、七字ノ句ヲ重ヌルヲナリ、尤何レノ
 句ニ拘ラズ、字餘リヲ用フルヲアリ、即左ノ如シ、
 千盤破ル、神無月トヤ、今朝ヨリハ、曇リモ敢ヘズ、
 打チ時雨レ、紅葉ト共ニ、故郷ノ、吉野ノ山ノ、山嵐
 モ、六字寒ク日毎ニ、成リ行ケバ、玉ノ緒釋ケテ、コキ
 散ラシ、霰乱レテ、霜凍リ、イヤ固レル、庭ノ面ニ、六字
 叢々見ユル、冬草ノ上ニ、降り布ク、白雪ノ、積リ々
 ヲテ、新玉ノ、年ヲ許多ニ、過グシツル哉、

○後世ノ發句ト云フハ、俗語ヲ雜ヘテ作ル者ナ



ルガ、則歌ノ上ノ句ノ、五字七字五字總計十七字
 ヲ以、其ノ意味ヲ云ヒ盡クス者ナリ、即物言ヘバ
 唇寒シ秋ノ風ノ如シ、是ニモ亦字餘リノ句ヲ用
 フルヲアリ、即梅一輪六字々々程ノ暖サノ如シ、
 ○今時世間ニ行ハル、俗歌ノ如キモ、句數固ヨ
 リ定リ無シト雖、字數ハ、大抵五字七字ヲ用フル
 トトス、
 ○元來言語ヲ發スルニ、五字七字ヲ以句ヲ成ス
 一ハ、自然ノ格調ナレバ、古代ノ歌ノ句法長短ア
 ル者モ、五字七字ノ句ヲ用フルト尤多シ、且文章

ノ中ニ於キテモ、調ヲ整ヘ、耳ヲ新ニセシメント
為ルニハ、必此ノ句法ヲ用フルトス、言語論概
ケ詞ノ條ニ引用シタル文ヲ見テ、之ヲ曉ルベシ、
淑按ズルニ、西洋文法ノ韻論ニハ、語中ノ強音、
及ビ言語ノ發動止靜抑揚屈曲ヨリ、詩句ノ韻
脚迄ヲ併ハセ論ズ、吾ガ國ニ於キテ、首トシテ
論ズベキ者ハ、緩急曲直以下ノ諸韻ニシテ、復
一々西洋ノ法ト符合スル能ハザルナリ、是彼
此ノ語法、自同カラザル所アルヲ以ナリ、且西
洋ニテモ、漢土ニテモ、詩句ノ末ニハ、必韻ヲ用

フルトナレ共、日本ノ歌ハ、全ク韻ヲ押ヒズ、唯
字句ノ數ニ由リテ、之ヲ定ムルトナレバ、是又
一揆ニ論ズル能ハザルナリ、然レ共謂フ所字
句ノ數ハ、則句調節奏ヲ整フル者ナレバ、亦之
ヲ併ハセ論ビザルヲ得ザルナリ、是此ノ篇ニ
於キテ、音聲ト格調トヲ合論シ、題シテ音調論
ト云フ所以ナリ、

附録

附ケ假名

○日本語ニ漢字ヲ代用スルハ、元簡便ニ從ノ
 テ始メタルナリ、然レ共一字ヲ以二三訓ヲ領
 スル者、或ハ其ノ讀法ヲ誤ラシテ恐レ、別ニ假名
 ヲ附スルナリ、即先ソカキキ先ソカキキ自ソカキキ自ソカキキ適ソカキキ適ソカキキノ如キ是ナ
 リ、其ノ他音訓ノ差別ナク、其ノ讀法ノ困難ナル
 者ハ、概假名ヲ施スナリ、或ハ其ノ文字ノ音訓
 ニ非ズシテモ、其ノ意味ヲ解セシメンガ為ニ、旁
 ニ譯ヲ付シテ、之ガ解ヲ為スナリ、即注キヲツクル意ヲ推シ衡ス

等ノ如シ、其ノ他西洋ノ地名人名等ヲ略シテ、充テタル文字、及ビ漢土ノ音ヲ示ス等ニモ、又假名ヲ配スルナリ、即ニルコ紐約ヨルタ閣龍コロンビタ及ビ北京等ノ如シ、附ケ假名ハ、元來老婆心ニ出デタル者ナルガ故、人ノ解シ易カラシメ、旨トスト雖、或ハ前後ノ文勢ニテ、如何ガシテモ、一方ノ讀法ニ讀マサレバ、適ハザル如キ者ハ、務メテ假名ヲ施サザルマシ、則是ヨリ先サキト云フ語ハ、奈何ナル人ニテモ、是ヨリ先ト讀ムナアルナシ、斯クノ如キ類ハ、其ノ讀法ノ定リタル者ナレバ、決シテ旁訓ヲ用フルニ

及バザルナリ、

送り假名法則

○送り假名ハ、文字ノ働キヲ示ス為ニ用フル者ナレ共、古ヨリ其ノ法定リナシ、或ハ多ク用フル者モアリ、寡ク用フル者モアリ、又ハ多寡打テ交ヘテ用フル者モアリ、各其ノ意ニ任セテ之ヲ用フルニ由リ、今ニ於キテ其ノ規則立タザレバ、竟ニ一定ノ期アルナシ、是ニ由リテ余不敏ヲ顧ズ、假リニ其ノ用法ヲ書シテ、以之ヲ示スノニ
○送り假名ニ就キテ、四種ノ要領アリ、第一變化

八聲ヲ送ル者、第二語中、八聲ヲ送ル者、第三語中、八聲ヲ送ル者、第四規則外、八者、

○第一變化ハ八聲ヲ送ル者トハ、例ハバ喜ビ樂ミ、

等ノ語ハ、名詞ニ用フル時ト雖ビ、ミヲ送ルベキ

ノ類ヲ云フ、是ハ動詞ヨリ形リタル名詞ニシテ、

則ハヒフヘ、及ビマミムノ變化ヲ持ツ語ナレ

バナリ、又飽キ飽ク押シ押スノ如キ、動詞ニ用フ

ル語モ、其ノ變化スル聲ヨリ、假名ヲ送ルナリ、

井戸水入レノ如キ合成名詞ハ、噴キ噴ク入レ入

ル、ト變化スル聲ヲ帶バル故、假名ヲ送ルノ常然

ナリ、但シ古郷ノ如キハ、古リ古ルト變スル語ヲ

持テ共昔ヨリ一語ノ如ク用ヒ、且音讀ニサヘ讀

過ギズ讀マズノ類、儘ギマヲ送ラザル者アリ、是

亦變化ヲ持ツ語ナレバ、送ラザルヲ得ザルナリ、

思ハシハ、思ヒ思フ思ヘト四段ノ働キラトス語

ナレバ、ハヲ送ラザルヲ得ズ、終ルハ、元終フ終ヘ

ト下二段ノ働キラトス語ナレバ、終ルト云フ井

ノハハ、變化ノ聲ニ非ザルナリ、此ノ別熟察スベ

シ、

同、傷クノ類ハ、合成動詞ナレ共、既一語トナリ

タル上ハ、則變化スル所ノ、ルヲノミ送ルベシ、又

シ、

七十五

日本書紀卷之十

同語法ニテモ、抽クト讀ムハハ、カキクケノ變化
ヲ持ツ故クヲ送リ、抽ツト讀ムハハ、ツテノ變化
ヲ持ツ故クヲ送ルベシ、オモイ陷ルオモイ、オモイ共ニルノミ
ヲ送ルヤシ、自他ノ違ヒアル故ニ、讀ム人自了解
ニ得ルナリ、

○第二語中ハ聲ヲ送ル者トハ、例ハバ長サ短サ
重ク輕ク等ノサ、ハ皆語中ノ聲ナレ共之ヲ送
ラザレバ、或ハ讀法ヲ誤ルトアルヤシ、故ニ何レ
モ之ヲ送ルトトス、其ノ他、但シ直チ夕ハモシチ
バ等ヲ送ルベシ、是モ皆語中ノ聲ナレ共、但直チ夕

一、讀ミ誤ランガ為之ヲ送ルトトス、

○第三語中ハ聲ヲ送ラザル者トハ、名詞ノ古勢
形等ノ如キ、皆假名ヲ送ラザルヲ云フ、副詞ノ既

盡コトハ、自甚煩オモシ、恰オモシ、扼オモシ、若オモシ、必オモシノ類、及ビ接續詞ノ、オモシ則且オモシ、オモシ又如オモシ
之ノ類モ、亦皆假名ヲ添フルニ及バズ、總ヤテ其

ノ語中ニ含メル聲ナルヲ以ナリ、其ノ已ラ已ト
誤ル類ハ、讀ム人ノ着意セザルニ在リ、其ノ他中
項モ、皆假名ヲ送ルニ及バズ、
同、オモシ又樂オモシ、オモシ悲等ノ語ハ、世俗必オモシシヲ添フルトトス、然
レ共、オモシシハ固ヨリ語中ノ聲ナレバ、之ヲ添フルニ

及ハズ、

吾ガ國此ノ人ト云フ語ハ人多クガノヲ略ス然
レ共吾ト云フ字ハ吾^ワ吾^ニノ兩訓此ト云フ字ハ此^コ
此ノ兩訓ニシテガハ全ク後詞ナレバ語中ノ
聲ニハ非ガルナリ、

○第四規則外ノ者トハ、而^ナ以^テ雖^シノ類是ナリ今細

ニ其ノ語ヲ分解スル所ハ、則動詞ト後詞トヲ合
ハセ保テタル者ナレバ、何レモ後詞ノ分ヲ分チ
添フルニ及バザルナリ、但シ是モ假名字ニシカ
ウシテモチテイヘドモト書シタランニハ、分明

ニ動詞ト後詞トヲ分チザルヲ得ザレ共、漢字ヲ
以書シタル所ハ、特ニ其ノ文字ヲ目當テトシテ、
兩詞ノ合シタル者ト知ルベキナリ、

非ヲアテズト訓ズル所、不^レモ此ノ字ノ中ニ會メ
ル語ナレ共、ガ^レシ^テズノ變化ヲ為スガ故ニ、是又規
則外ニ、假名ヲ送ラザルヲ得ザルナリ、

○右其ノ大略ヲ擧グルノミ、然レ共若解ク之ヲ
會セバ、則思ヒ半ニ過ギン、

日本文典卷之下終

藏版書目

日本文典 二卷

日本文典別錄 二卷 近刻

日本小文典 二卷

瀛環志略註解 二卷 同
瀛環志略中熟字典故等ノ解
ルシ難キ者ヲ漢文ニテ註シタ
由并正雪一生ノ始末ヲ漢文
ニテ記シタル書ナリ

慶安小史 一卷

明治九年三月十九日
版權免許
陳下谷 仲徒番地
中根淑藏板

書肆

同馬喰川 二丁目
森屋治兵衛

